



きらめき未来塾

2012

～次世代を担う高校生のために～

報 告 書

2012年10月

きらめき未来塾事務局

# 目 次

1. お礼とご報告（理事長 齋藤洋一）	1
2. 高校生のための2012 きらめき未来塾を開催して（名誉塾長 大竹美喜）	2
3. 発起人代表挨拶（発起人代表 大石正守）	3
4. 概要・カリキュラム	4-6
5. 塾生の所属高校	7
6. 講師紹介	8
7. 講師インタビュー	9-14
8. カリキュラム活動報告	
(1) 講義	15-20
(2) チームミーティング	21-22
(3) レクリエーション	23-25
(4) サポーターと未来塾OBによるパネルディスカッション	26-28
(5) 東日本大震災から1年半 被災地の現状 私たちにできることとは	28-30
(6) 野外学習	31
9. 塾生の指導について	32-33
10. 塾生の声	34-36
11. 事務局総括～反省と来年に向けて	37-38
12. 事務局活動	39
13. ご協賛・ご協力いただいた法人・団体・個人	40
14. 後援・協賛・理事会	41
15. きらめき未来塾2012 スタッフ・ご協力いただいた方々	42
16. プレスリリース	43-44

## 1. お礼とご報告

きらめき未来塾 2012 は、平成 24 年 8 月 20 日から 8 月 24 日までの 4 泊 5 日の日程で兵庫県洲本市の「ウェルネスパーク五色 浜千鳥館」を中心として行われました。

地元からの多大の歓迎を受けての開催となりましたが、開催にあたり、兵庫県知事 井戸敏三様から次のメッセージをいただきました。

すなわち、「きらめき未来塾 2012 が盛大に開催されますことを心からお祝いします。参加される高校生の皆さんは、講義などを通じて各界の第一人者の知識や経験に触れることで、自分の可能性に気付き、将来の夢や目標を考える素晴らしいきっかけを得ることでしょう。卒塾生から次代の日本を支えるリーダーが生まれることを期待しますとともに、きらめき未来塾の今後ますますのご発展とご参集の皆様のご健勝でのご活躍を心からお祈りします。」

今回の開催は第 8 回目となりますが、既にご報告した様にその実績が高く評価されて NPO 法人として 1 ランク上の認定 NPO 法人として認定されましたので、この期待と評価に応えるべき活動を永続的に維持できる様にと、理事、事務局員、サポーターが丸となって気持ちを引き締めて行われました。特に塾開催と卒塾後のフォローに至るまで一貫した基本理念をもつて実践していく立場で掲げられたもの、すなわち、

きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材の育成、そして将来的に日本を支えるリーダーを養成します。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける「心強き人」
2. 思いやりを持ち、共生できる「心清き人」
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある「心深き人」
4. 世界中の仲間とコミュニケーションができる「心広き人」
5. 強い責任感と行動力のある「心熱き人」

を再確認しつつ、企画、運営にあたりました。

これらにご賛同いただいた各界の第一線で活躍されている方々に講師を依頼し、情熱あふれる御講義をいただきました。またリーダーとしての必須条件でもある自分の考えを率直に表現し、さらにコミュニケーション能力を高めるために各講義の後には、講義内容を題材とした討論、ミーティング時間を設けました。人間としての思索のプロセス、思考収斂の仕方、他との協調の取り方などの機会を設けました。

新大阪駅集合後、淡路島までの道のりでは前田講師やサポーター達の指導の下にアイスブレイキングが行われ、初対面同志が共通の認識の下に生活する下準備がとられ、到着後の入塾式では、柳本講師の「オンリーワンではなくナンバーワンを目指そう」、大竹名誉塾長の「夢の実現に向けて-Never give-in!-」と若者の心をゆさぶるような講話があり、塾生活が開始しました。

講義の内容は別掲のカリキュラム内容をご参考にしていただきたいと思います。開塾後回収された塾生の感想文でも各自が将来を見定める強い示唆を得たことが記されていました。

野外学習としての淡路人形浄瑠璃や鳴門公園 渦の道見学、キャンプファイヤーでの交流など何時までも思い出に残る青春のひとつを送れたものと考えております。

また開塾に先立ちまして、「次世代を担う青少年の育成」と題する淡路島開催記念パネルディスカッションが多数の聴衆の参加の下に開催されました。大竹美喜名誉塾長のコーディネーターで、パネリストとして竹内通弘洲本市長、木下紘一洲本商工会議所会頭、小谷敦朗洲本市教育委員長、柳本品一アスリートネットワーク理事長の各位が熱弁をふるわれ多くの共感が得られたことと存じます。

このような素晴らしい機会がえられましたことには多くの方々の善意とご協力でもって支えていただいたものと心から深く感謝申し上げます。

まず、地元 竹内通弘市長、河上和慶教育長をはじめとする行政、教育界の皆様、淡路信用金庫理事長 瀧川好美様、洲本商工会議所会頭 木下紘一様をはじめとする経済界の皆様のご援助、そして細やかな運営についてご配慮いただき、資金面ではこの趣旨にご賛同いただいた個人会員、法人会員の皆様の浄財をいただき、また社会奉仕、青少年育成をこの場で実践していただいた大阪大淀ロータリークラブの皆様、さらにご多忙なところご協力いただいた講師の方々、チームとして行動できるようにと親身になってお世話いただいたサポーターの皆様、一年かけて準備し、当日の円滑な運営に携わった事務局の皆様方、これらが一つ欠けても今回の成果は得られなかったと思ひ、皆様方に心から感謝の意を表したいと存じます。

また本年度度より夏季開催と別立てとして、基本理念の 5 つのテーマに即したフォローアップセミナーや OBOG 交流会を大阪で開催し、卒塾者たちのブラッシュアップを行っております。

10 年 20 年後、ここで学んだ塾生の皆様が日本のリーダーとして活躍される時、日本は活力のある明るい国になっていることを確信しております。

認定 NPO 法人きらめき未来塾  
理事長 齋藤 洋一

## 2. 高校生のためのきらめき未来塾 2012 を開催して

本年の「きらめき未来塾」は8月20日～8月24日、兵庫県洲本市で開催いたしました。

開催地洲本市をはじめ、近畿地区、広島、関東、昨年の開催地小豆島、そして本年も東北から90名の高校生が参加し開催しました。

国難・危機の時代、リーダーの担うべき役割とは何であるか。私が考える理想的なリーダー像、真のリーダーとは、常に真実を語る勇気があり、あらゆる意見に耳を傾けながらも、自分の判断に自信を持って実行できる人であると思います。そして、自信を持って実行したことが、現実社会で成果を挙げられるように、他の人たちの心に火をつけ、インスパイアする魅力を備えている人です。

グローバル化の時代を迎え、今、企業が求める人材は異能・異才な人物です。つまり、異なった能力と才能をもった人です。なぜならば、答えのない時代、課題解決能力が求められるからです。それにはどんな国で、どんな仕事でもできるマルチタイプの人間になれということです。

未来学者は、2030年には現在のビジネスの60%がなくなると予想しています。であるからこそ、どのような人生設計をすべきか、自ら描かなければなりません。

リーダーとなるためには何が必要であるかと考え、また一人ひとりが自分の「目標」や「夢」を持ち、それを実現する道筋を「気づき」「発見」する場が未来塾です。世界で活躍する社会人講師の講義やグループディスカッション、グループワークを通じ、将来の人生設計をするためのヒントを得たものと思います。

最終日の皆さんの顔には、夢と希望があふれ、充実感がみなぎっていました。5日間という短い期間でしたが、講師の方々や仲間から刺激とアドバイスを受け、「新しい自分」と出会い、人生の目標を定めるための一歩を固めることができたのではないかと思います。

夢の実現に向けて—Never Give In!—自分との戦いに勝利する。

努力の積み重ねこそが天才や偉人をつくるのです。英国の元首相ウィンストン・チャーチルは、ドイツとの戦いで英国に勝利をもたらし、今や世界のリーダーとして有名です。そのチャーチルが、若い皆さんに発した言葉は、15分のスピーチで5分間隔で「Never Give In (決してあきらめるな)」を3回繰り返しただけです。

この精神で、そして社会を少しでもよくしようという「使命感」と「勇気」を持って「好きと思えること」を決して諦めることなく挑戦し続けていただきたいと思います。

未来塾開催を前に「次世代を担う青少年の育成」をテーマにパネルディスカッションを洲本市文化体育館で開催いたしました。このディスカッションには洲本市、教育委員会、商工会議所、そしてきらめき未来塾の関係者がパネラーとして参加し、ここ洲本からどのような人材を育成し、輩出したいか。また、どのようなリーダー像を望んでいるか討議を交わしました。ご尽力賜りました関係者の皆様に心よりお礼申しあげます。

最後になりましたが「きらめき未来塾」開催にあたり、兵庫県をはじめ、洲本市の皆様のご全面的なご協力、ご支援のもと開催することができましたことに、あらためてお礼申しあげます。また、多くの企業団体、個人の皆様からご賛同、ご支援、ご協力を賜りましたことに改めて心より厚くお礼申しあげます。

お陰様で本年も成功裏に終了いたしましたことをご報告申しあげますとともに、「きらめき未来塾」も皆様のご期待に添えるようさらなる努力を重ねてまいりたいと存じます。

認定 NPO 法人きらめき未来塾  
名誉塾長 大竹美喜

### 3. 発起人代表挨拶

今年で第8回目となるきらめき未来塾2012は、8月20日から24日までの4泊5日の日程で、兵庫県洲本市にあるウェルネスパークで開催しました。

研修会場は、洲本市の西方で近くに海の見える小高い丘に建てられており、青い空、山の緑、そして広場は手入れのいきとどいた芝生があり、その丘はバラやいろとりどりの花が咲き、絵画に出てくるようなきれいな施設でした。

8月19日(日)には、「きらめき未来塾2012」の開塾に先立ち、「次世代を担う青少年の育成」と題する記念パネルディスカッションを、洲本市総合体育館で聴衆約400人の来場を得て開催しました。

アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏のコーディネーター、洲本市長 竹内通弘氏、全日本女子バレーボール前監督 柳本晶一氏、洲本商工会議所 会頭 木下紘一氏、洲本市教育委員長 小谷敦朗氏がパネラーになって、将来の日本を担い支える青少年の育成はどうあるべきかについて、それぞれのお立場から熱く話していただき、有意義な討議をしていただきました。

「未来塾2012」のカリキュラムについては、日本を支えるリーダーを育てるという開催趣旨や、未来塾がめざす理想のリーダー像として、心強き人、心広き人、心清き人、心深き人、心熱き人、の基本理念を念頭においた講義をお願いして、各界で第一人者として活躍されている講師を招聘し、熱心に講義をしていただきました。今回のカリキュラムの中で、特筆すると、その1つは高校生へのメッセージとしてアメリカの大学に留学し、台湾・シンガポール等々、国際的に活躍している佐野綾子さんの話は、塾生と年齢的に近く親近感を持ったと思います。そのグローバルな活動に塾生は非常に興味を注いだようでした。

2つ目は、第1回の未来塾の塾生OBで、現在アメリカ留学中の横山君や前述の佐野さん、社会人サポーター2人とのセッションでは、アメリカから同時中継のスカイプを利用し議論する方法に、グローバル化を実感させられました。また、未来塾OBが現に海外で活躍しているということに、塾生は自分も横山君のようになりたい等、相当刺激を受けたのではないかと思います。

3つ目は、本年も東日本大震災の被災地の高校から引率の先生1名と5名の高校生に参加していただきました。今年の「テーマ」は、大震災から1年半、今我々は何をすべきかとし、被災からどうのりこえるのかを考えるように設定しました。阪神淡路大震災から17年、塾生は震災時に生れており、非常に関心が高く、洲本市の前教育長の基調となるお話や、被災地から引率の先生からの被災状況の話に熱心に耳を傾けていました。

4日目のバーベキュー、キャンプファイヤーはレク・音楽担当サポーターの活躍で、静かで暗くなった広場の中央で点火され、火が大きく燃え上がるのと同時に大きな歓声があがり、その後はチームごとの出し物で大いに盛り上がりました。

今回の塾生の全体的な印象は、非常に熱心、疑問に思ったことは率直に質問する等、活発であったこと、そして、行動がキビキビしていたと思いました。サポーターの皆さんの指導もさることながら、塾生自身の取組が真剣かつ積極的であったと思います。

前回の未来塾からとり入れている日本の古典の勉強について、最終日の淡路人形浄瑠璃の鑑賞については、事前に淡路人形浄瑠璃資料館長の講義で詳しく説明していただいた上に、人形浄瑠璃の始まる前に実際に人形に触れて体験させてもらっていたので、人形浄瑠璃という古典芸能は難しく縁遠いものと思いがちですが、そんな感覚を払拭する身近で楽しく鑑賞出来たことは良かったと思います。

最後になりましたが、素晴らしい自然環境の中で楽しく有意義な塾を開催できましたことは、講師の先生方、ご協賛賜りました多くの法人・個人の皆様のお陰です。そのご厚志に深く感謝申し上げます。

また、洲本市長様はじめ市役所、教育委員会の皆様に変にお世話になりご協力を賜りました。そして期間中、塾生をサポートしていただいた社会人・大学生17名の皆様、本当にありがとうございました。きらめき未来塾2012に関しまして、読売、産経、神戸等々の各新聞に掲載された他、地元のテレビにも報道されたように、各方面から高い評価をいただきました。

来年は、活動内容を更に向上発展させ、認定NPO法人きらめき未来塾としての確固たる歩みを進めたいと思います。引き続き、ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

認定NPO法人きらめき未来塾  
発起人代表 大石正守

## 4. 概要

(1) 開催日程 2012年8月20日(月)～8月24日(金) 4泊5日

(2) 開催施設 ウェルネスパーク五色



〒656-1301

兵庫県洲本市五色町都志 1087

TEL : 0799-33-1600 FAX : 0799-33-1603

### アクセス

#### ① 電車・バスの場合

三宮から高速バス(淡路交通・神姫バス)高田屋嘉兵衛公園下車(約100分)

(※JR舞子駅で乗り換え、高速舞子からも乗車可)

#### ② お車の場合



・大阪から100分 ・神戸から70分 ・北淡I.Cから30分 ・津名一宮I.Cから25分

(3) 参加人数 高校生90名

大阪府 23名 兵庫県 31名 京都府 12名 東京都 4名

神奈川県 3名 茨城県 1名 香川県 2名 広島県 8名

福島県 3名 宮城県 2名 沖縄県 1名

#### (4) カリキュラム

きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材、将来的に日本を担い支えるリーダーを養成すべく、カリキュラムを編成しています。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける心強き人
2. 思いやりを持ち、共生できる心清き人
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人
4. 世界中の人とコミュニケーションできる心広き人
5. 強い責任感と行動力のある心熱き人

講 義	法曹、医療、スポーツ、芸術、様々な分野から講師を招く。各講師の専門的知識や、経験をもとにした講義により、塾生に問題意識を持たせ、夢を見つけるきっかけや目標実現の指針を与える。
ディスカッション	講義後に、感想や疑問に思ったことを、塾生同士で意見交換する場を設けることにより、受け身で話を聞いているだけではなく、能動的な態度で講義にのぞみ、一人ひとりが自分で考え、発言する力を養う。
英 語	国際化が進む社会において必須となる英語の重要性を認識する機会を設け、外国人講師の話す「生の英語」を聴くことで、英語への興味や英語力向上への意欲を持つきっかけとなるような時間を設ける。
チームミーティング	「チーム旗作り」や「キャンプファイヤーの出し物を考える」等、チームで協力し、1つのものをつくるという課題に取り組み、チーム間でのコミュニケーションを深め、協調性を育てるとともにリーダーシップを発揮する場とする。
レクリエーション 音 楽	初対面同士の塾生の緊張を和らげ、話かけやすい雰囲気を作るとともに、明るく活発な人間的魅力を涵養する。また、融和協調をはかり、コミュニケーション力、団結力を高めることを目的とする。
野外学習	開催地の文化施設等の見学や、自然の中で活動を行うことによって、豊かな感受性と、自ら考え学ぶ力を身につける。また、集団の中でリーダーとして必要な自主・自立の精神、行動力を養う。今回は、文化体験として淡路人形浄瑠璃の鑑賞、自然体験として鳴門海峡の渦潮見学を行った。淡路人形浄瑠璃では、「古典で学ぶ」の講義で、歴史や基礎知識を学んだことにより、より興味を持って鑑賞することができた。
発 表 会	塾で学んだことを糧にし、自身で定めた将来の目標について決意表明を行う。自分の目標を堂々と人の前で発表する能力を養うとともに、夢の実現に向けての明確な意識を持たせることを目標とする。

※ 塾生は11～12人程に組分けして、チームでの活動を基本とする。

#### (5) サポーターについて

塾生の学習や合宿生活は、若手社会人や大学生からなるサポーターがフォローを行い、身近な先輩として、塾生が夢を持ち目標をつくるためのアドバイスを行う。今年、社会人12名、大学生5名に協力して頂いた。

##### 【サポーターの役割】

##### ① 塾生の学習のサポート

交代でチームを担当し、学習やチームミーティングのサポートを行う。

##### ② 運営のサポート

カリキュラムを円滑に進めるため、講義の準備等を行う。

また、司会や、講師のインタビュー等も担当する。

##### ③ 音楽、レクリエーション指導

それぞれ専門分野のサポーターが、朝の体操やキャンプファイヤー時のレクリエーションの企画、進行や合唱の指導等を行う。

# きらめき未来塾 2012 カリキュラム

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00																
8/20 (月)	1日目	事務局	先発	会場設営 受け入れ準備													事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
		事務局	同行	事務局 集合 9:00	サポーター 集合 9:30	塾生 集合 10:00	JR新大阪駅 バス出発 10:30	アイス ブレーキング 前田講師	研修 会場 到着	屋 食 荷物搬入 13:00~14:30	入塾式 14:30 ~ 15:00	柳本講師 「塾生心得」 「オンリーワンでは なくナンバーワンを 目指そう!」 15:00~16:00	休憩	大竹名誉塾長 名誉塾長講話 「夢実現に向けて ~Never give in~」 16:10~17:10	休憩	高校生へ のメッセー ジ 佐野綾子 17:20~ 17:50		夕 食 17:50~18:45	講義1 織田講師 「未来を築くための アフメーション」 18:45~19:45	オリエンテーション 19:45~21:00	塾生 入浴・消灯 21:00~23:00												
		サポーター	新大阪駅																														
		塾 生																															
8/21 (火)	2日目	体操	朝食	チーム ミーティ ング	講義2 森講師 「希望を胸に...これか らの弁護士像につい て」	Q&A ディスカッ ション	休 憩	チーム ミーティ ング	屋 食	講義3 SHEA DAVID 講師 「Telling Stories:The importance of speaking in English」	休 憩	講義4 黒岩講師 「夢を実現する チカラとは?」	Q&A ディスカッ ション	休 憩	講義5 下垣講師 「命と平和の尊さ」	Q&A ディスカッ ション	夕 食	学生サポーターによる パネルディスカッション 19:00~21:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り														
		6:45 ~ 7:30	7:30~8:30	8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	10:45 ~ 11:00	11:00~12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00 ~ 14:15	14:15~15:15	15:15~ 16:00	16:00 ~ 16:15	16:15~17:15	17:15~ 18:00	18:00~19:00	21:00~23:00	塾生 入浴・消灯														
		8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	11:00~12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~ 14:45	14:45 ~ 15:00	15:00~16:00	16:00~ 16:40	16:40 ~ 17:00	17:00~18:30	18:30~19:30	19:30~21:00	21:00~23:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
		8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	11:00~12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~ 14:45	14:45 ~ 15:00	15:00~16:00	16:00~ 16:40	16:40 ~ 17:00	17:00~18:30	18:30~19:30	19:30~21:00	21:00~23:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
8/22 (水)	3日目	体操	朝食	チーム ミーティ ング	講義6 坂本講師 「Catch your Dreams. ~自分の可能性を 信じて~」	Q&A ディスカッ ション	休 憩	チーム ミーティ ング	屋 食	講義7 中西講師 古典に学ぶ 「『古事記』と 人形浄瑠璃」	Q&A ディスカッ ション	休 憩	講義8 森山講師 「人はすごい確率で 産まれてきた」	Q&A ディスカッ ション	休 憩	講義9 朝原講師 「あきらめなければ夢は叶う」	夕 食	野外学習に関連する内容 または 震災関連 等 19:30~21:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り														
		6:45 ~ 7:30	7:30~8:30	8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	10:45 ~ 11:00	11:00~12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~ 14:45	14:45 ~ 15:00	15:00~16:00	16:00~ 16:40	16:40 ~ 17:00	17:00~18:30	18:30~19:30	19:30~21:00	21:00~23:00	塾生 入浴・消灯													
		8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	11:00~12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~ 14:45	14:45 ~ 15:00	15:00~16:00	16:00~ 16:40	16:40 ~ 17:00	17:00~18:30	18:30~19:30	19:30~21:00	21:00~23:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
		8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	11:00~12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~ 14:45	14:45 ~ 15:00	15:00~16:00	16:00~ 16:40	16:40 ~ 17:00	17:00~18:30	18:30~19:30	19:30~21:00	21:00~23:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
8/23 (木)	4日目	体操	朝食	チーム ミーティ ング	講義10 林講師 「素粒子と宇宙ーミク ロからマクロまでー」	Q&A ディスカッ ション	休 憩	講義11 木村講師 「子供たちに夢を! 晴れの国、岡山から Jリーグへ!」	Q&A ディスカッ ション	屋 食	チーム ミーティ ング	塾長 挨拶	卒塾 証書 授与 発表会	理事 長 挨拶	写 真 撮 影	休 憩	チーム ミーティ ング	バーベキュー & キャンプファイヤー 18:00~21:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り														
		6:45 ~ 7:30	7:30~8:30	8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	10:45 ~ 11:00	11:00~12:00	12:00~ 12:45	12:45~13:45	13:45~15:00	15:00~17:00				17:00 ~ 17:15	17:15~ 18:00	18:00~21:00	21:00~23:00	塾生 入浴・消灯													
		8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	11:00~12:00	12:00~12:45	12:45~13:45	13:45~15:00	15:00~17:00				17:00 ~ 17:15	17:15~ 18:00	18:00~21:00	21:00~23:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
		8:30~ 9:00	9:00~10:00	10:00~ 10:45	11:00~12:00	12:00~12:45	12:45~13:45	13:45~15:00	15:00~17:00				17:00 ~ 17:15	17:15~ 18:00	18:00~21:00	21:00~23:00	事務局・サポーター 打合せ・入浴・見回り																
8/24 (金)	5日目	帰 途 準 備	朝食	野外学習 淡路人形浄瑠璃見学→鳴門公園、渦の道→昼食										14:15 淡路ハイウェイオアシス																			
		7:30~8:30											15:45 新神戸 降車																				
														16:45 新大阪 解散																			

※ 常に5分前行動で!



## 5. 塾生の所属高校

### 〈大阪府〉

大阪府立池田高等学校  
大阪府立泉北高等学校  
大阪府立桜塚高等学校  
大阪府立佐野高等学校  
大阪府立清水谷高等学校  
大阪府立千里高等学校  
大阪府立東百舌鳥高等学校  
大阪府立牧野高等学校  
大阪府立山田高等学校  
関西学院千里国際高等学校  
好文学園女子高等学校

### 〈兵庫県〉

兵庫県立尼崎小田高等学校  
兵庫県立淡路高等学校  
兵庫県立香寺高等学校  
兵庫県立加古川東高等学校  
兵庫県立加古川南高等学校  
兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校  
兵庫県立神戸高塚高等学校  
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校  
兵庫県立洲本高等学校  
兵庫県立洲本実業高等学校  
兵庫県立龍野高等学校  
兵庫県立津名高等学校  
兵庫県立豊岡高等学校  
兵庫県立西脇北高等学校  
兵庫県立農業高等学校  
兵庫県立姫路西高等学校  
兵庫県立姫路別所高等学校  
兵庫県立姫路南高等学校  
兵庫県立星陵高等学校  
関西学院大学継続啓明学院高等学校  
柳学園高等学校

### 〈京都府〉

京都府立鴨沂高等学校  
京都府立東稜高等学校  
京都府立福知山高等学校  
京都府立宮津高等学校  
私立京都暁星高等学校  
京都外大西高等学校

### 〈広島県〉

広島県立庄原実業高等学校  
広島なぎさ高等学校  
呉市呉高等学校

### 〈東京都〉

淑徳高等学校  
青稜高等学校

### 〈神奈川県〉

逗子開成高等学校  
聖光学院高等学校

### 〈茨城県〉

茨城県立龍ヶ崎第一高等学校

### 〈香川県〉

香川県立小豆島高等学校

### 〈宮城県〉

宮城県立佐沼高等学校

### 〈福島県〉

福島県立小高工業高等学校  
福島県立小高商業高等学校  
福島県立双葉高等学校

### 〈沖縄県〉

沖縄県立那覇国際高等学校

〈計 52 校〉

## 6. 講師紹介

<p>おおたけよしき 大竹美喜</p>	<p>広島県庄原市生まれ。韓国大邱韓医学大学名誉保健学博士授位。1974年11月アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)を日本に創業。副社長、社長、会長を経て、2003年創業者・最高顧問に就任し現在に至る。日本で初めて「がん保険」でスタートした同社を、国内最大級の外資系生保に成長させた。本業のかたわら、教育面では多数の大学で理事等を務め若者の人材育成に注力。国民の豊かな生活に向けてさまざまな提言を行うとともに、ニュービジネスの育成にも尽力している。</p>
<p>よしざわ たけし 吉澤 健</p>	<p>滋賀県大津市生まれ。1962年滋賀県立膳所高校卒業。1966年東京大学法学部を卒業し、同年4月旧自治省入省。1977年自治省官房文書広報課課長補佐、1984年大阪府財政課長。その後教育次長、総務部長、副知事、2001年四国大学経営情報学部教授。2009年より同大学講師。</p>
<p>やなぎもとしょういち 柳本 晶一</p>	<p>大阪市生まれ。現役時代のポジションはセッター。2003年ワールドカップ・2004年アテネオリンピック・2008年北京オリンピックでは全日本女子バレーボールチームの監督を務める。現在は、きらめき未来塾副理事長、アスリートネットワーク理事長</p>
<p>まえだよしあき 前田嘉昭</p>	<p>大阪市生まれ。東京教育大学卒業。大阪府高等学校教諭、大阪府立阿倍野高校校長を務め退職。大阪教育大学等非常勤講師・(財)日本ラグビーフットボール協会理事・(財)大阪府レクリエーション協会理事・生涯スポーツ社会づくりの推進を目標にボランティア活動をしている。</p>
<p>おだ よしゆき 織田善行</p>	<p>広島県尾道市生まれ。広島大学附属福山高校卒業、東京大学文学部社会学科卒業。明治安田生命入社後、AFLACに転職。取締役人事部長、常務取締役を歴任。TPIジャパン社長。現在、アドベンチャーコーチング株式会社社長。</p>
<p>もり しげお 森 薫生</p>	<p>福井市生まれ。和歌山県立向陽高等学校、早稲田大学教育学部卒業。昭和54年に司法試験に合格し、司法修習生を経て、昭和57年に弁護士登録、辻中法律事務所に勤務し、平成18年に高麗橋中央法律事務所開設、業種の異なる数社で監査役を勤める。</p>
<p>シェイ デビット SHEA DAVID</p>	<p>Eリ大学(米国ジョージア州)卒業後、コネル大学にてFALCON日本集中プログラムを終了、ジョージア州立大学教育学部で語学教育を勉強し教育博士号を取得。1979年に初来日。1986年に文部省の仕事で来日し、1993年には慶應義塾大学のVisiting Lecturerとして来日。2000年に慶應大学で常勤講師となる。現在は、商学部にて教鞭を取る。</p>
<p>くろいづゆうじ 黒岩祐治</p>	<p>神戸市出身。現神奈川県知事。元フジテレビキャスター、元国際医療福祉大学大学院教授、元早稲田大学大学院講師。1980年早稲田大学政経学部卒業後、フジテレビジョン入社。報道記者、番組ディレクターを経て「FNNスーパータイム」「(新)報道2001」のキャスターを21年半務め、2009年9月末退社。2年間のワシントン駐在も経験。自ら企画・取材・編集まで手がけた救急医療キャンペーンが救急救命士誕生に結びつき、放送文化基金賞、民間放送連盟賞を受賞。ミュージカル「葉っぱのフレディ」のプロデューサーも務める。</p>
<p>しもがま まき 下垣真希</p>	<p>島根県浜田市生まれ。愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてドイツに留学。ドイツ国家声楽教授資格を取得し、ケルン国立音楽大学を卒業。冷戦時代からベルリンの壁崩壊までの歴史的大転換期にドイツ国際ラジオ局でDJを務める。帰国後、国内外のオーケストラと競演する他、ひとりオペラ「女はすてき」を全国で公演。2000年、アジア代表としてドイツ・ハノーヴァー万国博閉会式で独唱。近年は、日本の美しさや命と平和の尊さを伝えるメッセージ性の高いコンサートや、生演奏を取り入れた講演活動を全国で展開。コンサート活動のかたわら、名城大学大学院で多文化共生論、ドイツ語の教鞭をとる。</p>
<p>さかもと たつ 坂本 達</p>	<p>東京都生まれ。現在、株式会社キハウス人事部勤務。1995年9月～1999年末までの4年3ヶ月間、有給休暇で自転車世界一周、2002年自転車日本を縦断する「夢の架け橋プロジェクト」で86会場を回り講演、「東南アジア青年の船」(第31回)に、ナショナルリーダーとして参加。現在は勤務の傍ら全国で講演活動を続け、著書の印税でお世話になったギニアの村で奨学金制度を設立。プータン王国では幼稚園・小学校を支援している。昨年、東日本大震災の復興支援、被災学生に対する奨学金等として著書印税を全額寄付している。</p>
<p>なかにしひでお 中西英夫</p>	<p>兵庫県生まれ。神戸大学文学部卒業。兵庫県の県立学校を退職後、2011年から南あわじ市淡路人形量瑠璃資料館館長、南あわじ市文化財保護審議委員を務める。</p>
<p>もりやまあきひろ 森山明宏</p>	<p>医学博士(大阪大学)、日本産婦人科学会認定医(母体保護法指定医)及び、麻酔標榜医という2つの資格を持つ。現在、大阪市内で最年少部長として大阪府済生会中津病院に勤務。年間分娩数600件、ガン手術等300件をこなしている。</p>
<p>あきはらのぶはる 朝原宣治</p>	<p>兵庫県生まれ。夢野台高校・同志社大学卒業、現在、大阪ガス株式会社近畿圏部在籍。大学3年生の国体100mで10秒19の日本記録樹立。その加速力から「和製カール・ルイス」と呼ばれた。2008年には自身4度目となる北京オリンピックに出場し、400mリレーでは、悲願の銅メダル獲得。同年9月競技生活引退。</p>
<p>りん せいじ 林 青司</p>	<p>1981年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、1984年米国ブルックヘブン国立研究所研究員、1987年高エネルギー物理学研究所(KEK)助手(1990年ヨーロッパ原子核研究センター(CERN)研究員)、1996年より神戸大学理学部教授。</p>
<p>きむらまさあき 木村正明</p>	<p>岡山市生まれ。岡山大学付属中学校卒業(付属中学時代は生徒会長を務めた)岡山県立岡山朝日高等学校卒業、東京大学法学部卒業。ゴールドマン・サックス(米系投資銀行)入社。債権営業部長、マネージングディレクター(執行役員)就任。2006年にゴールドマン・サックス退職し、同年7月にファジアーノ岡山スポーツクラブを創業し代表取締役役に就任。</p>

## 7. 講師インタビュー

### 柳本品一 講師

**Q1. 今日では具体的な夢を持っている学生は減っていると感じています。そういったまだ夢を模索中の学生へのアドバイスをお願いします。**

**A1.** やっぱり気づきなんですよ、言われてることにどこで自分が気づくか。ずっとそのままいく場合もあるんだけど、でもそれはもったいない。同じ人生を歩んでいるんだから。

この間のロンドンオリンピックでは、10代から二十歳前後の子の活躍が目立った印象があるでしょ？だから若者は大きな夢を持ってない人ばかりではないと思うんですよ。両極端な世界になってきていると思います。昔に比べると。今は選択肢が多すぎるし、導いてくれないね。

だから、ITが進んでるけど、やはり人と話をする、人の話を聞く能力と、もう一つは本を読むこと。これがなかったらいけないのじゃないかな。外からの声とか目で頭の中でものを読解していくとか、朗読とか、ラジオ、耳から入ってくるもの。音楽も大事だけど、ちょっと違う切り口を自分で探っていくことをすれば変わっていけると思う。



**Q2. 柳本講師が経験した今までで一番大きな挫折とそれを具体的にどのような行動を起こして乗り越えたのか教えて下さい。**

**A2.** いろんな場面、場面で挫折というか、息詰まった事も含めると、いろんな経験をしましたね。最初は迷っても、恥ずかしいことでもなんでもなくて、何回もあきらめずにやっていけば、経験が自分の位置感をうまくコントロールできるような人間にも成長させてくれる。それは自分が大きくなる為のステップアップの時間だと思って、最初は分からなくてもガムシヤラにあがけばいい。

ただ一つだけ言えるのは、逃げないこと。それがやっぱりキーワードだと思うな。

### 大竹美喜 講師

**Q1. 今年の塾生の様子について**

**A1.** 今年、参加いただいた高校生は、ものすごく一人ひとりの目が輝いており、素晴らしい高校生に集まっていた喜びを思いました。

**Q2. 今後の日本の教育のあるべき姿について**

**A2.** グローバル化を迎えた現在、これからの時代を担う高校生の皆さんには、全世界で活躍できる人材になっていただきたいと思います。そして、塾生の皆さんには、見えないものを見抜く力を養っていただきたいと思います。それには今まで学んだものを一度捨てる。これを私は脱学習と呼んでいます。変化のスピードが速い時代にあって、学んだものが邪魔をします。だから新しい発見が見つからない。また、見抜くことができないのです。邪魔している既成概念を打破し、真実を見抜く力をつけていただきたいと思います。



### 織田善行 講師

**Q1. 先生は高校生のころ、具体的に夢をアフターアクションしていましたか？**

**A1.** 私は、高校時代、本日の講義で紹介したアフターアクションの手法を用いてゴールを掲げてはいませんでした。この手法を勉強したのは社会人になってからです。

高校生のときは、まず自分がやりたいことを決めて、大学を決めるというやり方でした。文学の勉強をしたい、中でも仏文をやりたいと思っていました。そこで仏文を勉強するにはどこの大学がいいか調べ東大を受験して受かったということです。



(織田講師続き)

**Q2. 現在の高校生の印象はどうでしたか？**

**A2.** 今年参加された塾生は、初日ということもあり緊張し、仲間と馴染んでいないこともあり、反応が少ないという印象でした。会場に入ったときから今年は静かで、おとなしいように感じました。ですが、未来塾では、自分のやりたいことにこだわってほしいと思います。今できることと、将来やりたいことの橋渡しがアフタメーションです。自分が本当にやりたいことにこだわり、それだけ自分と向き合って答えを出してほしいと思います。そしてそれをどう表現するか。最終日に大きなビジョン、夢を掲げて欲しいと思います。

**森 薫生 講師**

**Q1. 今後はどのような弁護士として活躍していきたいと思われませんか？**

**A1.** 弁護士になって最初に勤めた事務所の(故)辻中先生に常に言われていたのですが、「弁護士は、いつまでたっても、真剣に、優しく、十分に、依頼者の言い分や悩みなどを聞いてあげるのが大切だ」という言葉をよく覚えています。私も、弁護士としての経験を何年積もうが、十分にサポートや助言が出来る弁護士になりたいと思います。



**Q2. 塾生のみんなが夢をかなえていくためのアドバイスと、壁にぶち当たったとき、その壁を打ち破るコツを教えてください。**

**A2.** 夢を持って、希望を持って、自分の希望や夢をかなえるために精一杯がんばるということ。何があっても努力をし続けるということ。これは絶対に大切だと思います。

1回の失敗であきらめるのではなく、何が駄目だったのか、よくなかったのかを自分なりに探求し、自分の人生を謳歌して欲しいですね。

**SHEA DAVID 講師**

**Q1. 日本で勉強するよりも外国へ行く方が、英語が上手くなると思いますか？**

**A2.** 必ずしもそうだとも思いませんね。確かに外国に行って勉強することはいいことですし、とても有益なことではありますけど。英語が上手くなるために、必ずしも外国へ行く必要はないということです。日本でも十分に勉強することはできますよ。特に、インターネット世代の皆さんは、英語にのめりこむきっかけさえ見つけることが出来れば、必ずしも外国へ行く必要はないと思います。



**Q2. 塾生へのメッセージをお願いします。**

**A2.** 塾生へのメッセージは、「SPEAK OUT (発言)」しようということです。もっと自信を持って、もっと「SPEAK OUT」して欲しいと思います。

「ENGAGE・・・TORIKUMO-TO-SHITE-KUDASAI」(取り組もうとしてください)

## 黒岩祐治 講師

**Q1. 何度も挫折を続け、一時は政治家への道を断念したにも関わらず、現在神奈川県知事として活動されているということは、政治家になるという思いはどこかで持ち続けていたのでしょうか？**

**A1.** あったんでしょうね。結果的には。政治家になるという中で、政治家とは何だ、政治とはそもそも何なんだというところですよ。政治の現実を垣間見た中で、ある種の嫌悪感というものがあったし、自分の本当が考える政治というものは違うんだという思いがあって、今そのまま飛び込んでいったら、絶対自分の思う政治というのは実現できないだろうという思いがずっとあった。震災以降、神奈川県知事へという話があって、それはもしかして自分の理想とする政治ができる環境が今あるかもしれないと思ったところで、決断をしたというところですね。



**Q2. 塾生たちへのメッセージをお願いします。**

**A2.** 夢は必ず実現できるんだという楽観的な思い、これを大切にしてほしいですね。敵がいっぱいでくる、挫折する、うまくいかないというのは絶対ある。それは全部想定内なんです。そういうのがない世界は絶対ないんです。そういうことがあったとしても最後は何とかなるんだ、前を見る気持ち、それは大事なことだと思いますね。

## 下垣真希 講師

**Q1. 高校生たち、戦争を知らない世代の戦争や平和への向き合い方について**

**A1.** 広島にいと、戦争の学習をするけれど、人間は距離が離れると心が離れてしまうんですね。

東日本のことは、関西の方に来ると少し離れてしまうところがありますね。人の心の痛みを思うことや、感性を磨くことはとても大切です。人の痛みを理解できる様な人になれば理想的ですね。自ら、自分の足で、広島や沖縄に行ったりして、自立的な、受動ではなく自分から能動的に動く癖をつけて欲しいです。



**Q2. 塾生が夢や目標に向かう過程での「音楽」との付き合い方について。**

**A2.** 音楽もそうですが、心・情熱・命などの大切なものには形がありません。目に見えないものを大切に思う心を忘れないで欲しいですね。音楽は嗜好品ですから、何を聴いてもいいですが、バランスがとても大切です。出来るだけ食欲にいろいろなものを見て聴いて欲しいです。その中から自分の大切なもの、愛すべきもの、守るべきものが見えてきますから。

若い時は、とにかく、食欲に！音楽は力をくれるので辛いときは心の糧にして欲しいですね。大きな声で歌って欲しいです！

## 坂本 達 講師

**Q1. 坂本講師の夢が世界一周だったということで、講義でもお話されていたように、目標は「偏見をなくす」ということがあったと思うんですが、出発の時に考えられていたその他の世界一周の目標を教えてください。**

**A1.** 自転車が好きで、自転車で世界一周をしたんですが、自転車の地位をあげるというか、例えば、自転車で来た人はみんないい人達だったとか、自転車の人が来たから助けてあげるとか、日本人はいい人だったので、今度日本人が来たら面倒みてあげようとか、自転車の人はマナーもいいんだなっていうのを知ってもらいたいと思っていました。自転車って実はヨーロッパの文化なんですけれども、ヨーロッパでは大事にされているんですが、日本はなかなか社会的に尊重されていないところがあるので、世界でもそういうことを目指してやっていました。



(坂本講師続き)

**Q2. 講義でお話して頂いたことは、夢を持っている塾生にとっては、すごい背中を押していただけるお話でした。今まだ夢を持っていない必死になって今何か探している、または、とても立派な夢を持っているけど、抽象的にしか考えていない、そのような塾生にメッセージをお願いいたします。**

**A2.** 今日、講義の中でお話した「挨拶をすること」や「感謝をすること」、「自分のやり方でやっていくということ」。その3つのこと。あれを実際にすることで、自分だけでは気づけない、自分の個性を周りの人が引き出してくれるんですよ。自分が得意なこととかが、できるようになったんですよ。その3つを実践し続けることで夢に出会うと思います。待っていても夢は来るものじゃないですし、自分からそれを実践すること。それをやっていたら必ず見つかると思いますね。

### 中西英夫 講師

**Q1. 塾生の印象はどうでしたか？**

**A1.** しばらく、若い人の前で話したことがなかったのですが、みなさん目を輝かせて熱心に聞いていただいて、質問もたくさんしていただいたので、本当にうれしかったですね。気持ちよくお話をさせていただきました。

**Q2. 日本の伝統文化である、人形浄瑠璃を後世に伝えていくには何が必要だと思いますか？**

**A2.** 人形浄瑠璃というのは、「人形をあやつる、浄瑠璃を語る、三味線を弾く、」三つの儀礼がありますが、それを伝承しないといけないということが大事でしょうし。人形浄瑠璃に限らず、他のどの伝統芸能についてもですが、愛好してくれるお客さんを育てるのがどの伝統芸等の伝承には大切じゃないでしょうかね。そのためには、伝統芸能の良さをお客さんに知ってもらえるようないろいろな方法が必要かなと思います。



### 森山明宏 講師

**Q1. 命の大切さについてお話いただきましたが、今イジメや虐待など、命がないがしろにされているというか、命の尊さが失われているような気がします。若い世代が、すべきことは何でしょうか。**

**A1.** 僕自身が思うことは、人は必ず使命を持って生まれてきているんです。その使命を純粋に全うして頂きたい。もちろん、イジメや虐待など色々な問題があるけれど、その中で、使命感を強く持てるような生き方をして頂けたらと思います。

**Q2. これから未来を切り開いていく学生達に期待することは？**

**A2.** これから色々なツールが良くなっていく、そういう時代の中で、心の持ち方・心のあり方は、やはりアナログであるべきだと思います。デジタルに流されない大人になってほしいと思います。



### 朝原宣治 講師

**Q1. ケガをして、骨折をした時に、1歩踏み出だそう、頑張ろうとした、きっかけは何だったのですか？**

**A1.** 自分のやってきたことへの執着というか、きっちり気持ちを入れ替えて治療するという勇気がなくて、ズルズルと走り続けて、それでも治らないので、気持ちにムラムラがたまってきていたんですね。最後に骨折してしまったことで、背負っているものとか、自分のしがみついているものから離れられたんです。これは、神様が休めと言っているんだという風に。荒療治ですが(笑)。



(朝原講師続き)

**Q2. 他の競技にない陸上の楽しさは何ですか。**

**A2.** 自分勝手に大丈夫というところ(笑)。記録が悪ければ悪い、人に迷惑をかけないですからね。リレーとかは別ですけど。そのかわり、自分がしっかりしないと強くなれないので、そこは辛い面と楽な面と両方あります。他人と比べるというのも、競技でももちろんあるんだけど、それプラス自分との闘い。自己ベストというのがあるので、自己を超えることができる。タイムとか、数字でわかりやすくできるので、評価という意味ではスカッとすると思います。

**林 青司 講師**

**Q1. 講義中の塾生の反応や様子はいかがでしたか？**

**A1.** 非常に熱心に聞いてくれているという印象でした。目を見てるとかなり集中して聞いてくれている感じがしました。難しい内容だったのですが、興味を持って聞いてくれた様子でした。

**Q2. 物理学を学ぶ醍醐味とは何ですか？**

**A2.** 中学・高校から普通の教科の勉強よりも、パズルみたいなものを見つけて何とか自力でとけないかを常に考えていました。今やっていることは、多少はそれに比べると難しく抽象的になっていますが、自分の中では、基本的に同じ醍醐味なのかなという気がしています。

専門的に考えすぎないで、(塾生が) 素朴な疑問ということで質問してくれたのですが、私はそれが最も大事だと思います。素朴な疑問というのは、いちばん重要な点をついていることが多いんです。それを大事にしていきたいというも思っています。



**木村正明 講師**

**Q1. 塾生の印象はどうでしたか？また彼らにメッセージをお願いします。**

**A1.** 僕の話の時、ほとんどの方が目を見開いて、何かを吸収してやるぞという熱意やエネルギーを感じて、逆にこちらが刺激を受けました。質問の時も、あれだけ手が上がって嬉しかったのもありますが、やっぱり人生って自分で何かを掴み取ろうとする力が、何よりも大切だと思うので、今日来られた皆さんのこれからの活躍を、本当に心から願っています。

**Q2. 高校生に対して30歳になった時、どうなりたいか考えておきなさいとおっしゃっていましたが、先生は、どうなりたいと考えておられましたか？**

**A2.** 僕は、コーチングの授業を受けたのは、31歳の時だったので、40歳の誕生日を想像しろと言われました。高校生にとって40歳は現実味がないかと思って30歳にしたんですが。誰もがおぼろげに自分の将来を考えていると思うんですよね。僕が高校の時はおもかく「いくつになっても魅力的な人間でいたい」という思いがすごくあって、仕事はなにをやっているかわからないんだけど、自分がイキイキとしていたい、それによって周りの人もイキイキとするような人生を送ってもらいたいと思っていました。



## 「高校生へのメッセージ」

### 佐野綾子 講師

留学や、国連などでのインターシップを経て、さらにシンガポールにて、ビジネススクールに通いMBAを取得。そして、国際コーディネーターとして、自分の目標に向かいチャレンジと続ける佐野綾子さんが、これから学んでいく塾生達へ、メッセージとエールを送った。



### プロフィール

国際コーディネーター：語学（英語、中国語）

富山県高岡市出身。富山県立高岡高等学校を卒業後、2001年米国のインディアナ大学に進学、ビジネス経済を学ぶ。在学中、KPMG (Financial Advisory Service) ニューヨーク支社にて、5ヶ月間インターンとして勤める。2005年に大学卒業後、台湾の師範大学にて語学留学し、中国語を学ぶ。2006年より広告代理店である電通にて営業として勤める。

2010年電通退社後、国連東京事務所広報室にてインターンをし、国連アカデミックインパクトというイニシアチブに関わる。2011年ロータリー財団国際親善奨学生として、ビジネススクール INSEAD (シンガポール/フランス) に入学。2012年MBAを取得。

### インタビュー

#### Q1. 人生のターニングポイントとなった出来事は？

**A1.** 高校生の時に、ある友達に出会って、彼女はいつも私に「綾子はどうしたいの？」「綾子は何がしたいの？」と聞いてくる子で、自分の考え方をもっと大切にしないといけないというのが分かったんです。自分らしさが見えてくると、一気に人生が楽になった。自分でも気づいていなかったんだけど、周りにあわせて、臆病に気を使っていたことに気付いたんです。学校って皆とうまくやらないといけないので、周りにあわせることを自然にやっていて、でも、自分の考えというのを大事にできるようになったことで、高校生から今まで人生がずっと楽しいです。

#### Q2. 塾生の印象はどうでしたか？また彼らにメッセージをお願いします。

**A2.** すごく皆元気で、今朝、チーム名を考えていた時、エンドレスとか、GOGO13とか、チームの皆で、夢にむかって頑張っていこうというメッセージが沢山あって、よく最近の高校生はっていう話を

聞くんですけど、すごくしっかりしていて、仲間を大事にして、夢にむかって頑張ろうという意志が見えたので、それを忘れないでほしいと思いました。皆の合唱している姿を見て、私自身も皆の頃にもっていた気持ちを忘れちゃいけないなとすごく思いました。



## 8. カリキュラム活動報告

### (1) 講 義

#### 1 日目 (8 月 20 日)

塾生心得「オンリーワンではなくナンバーワンを目指そう！」

柳本 晶一 講師 (副理事長)

アテネ・北京オリンピック女子バレーボール 日本代表監督、  
一般社団法人アスリートネットワーク 理事長

【内容】挫折や負けを経験するときは、壁にぶち当たるもの。しかし、その壁は必ずドアに変わる瞬間があるので、強い意志を持って取り組むことが大切。成功するため、夢を叶えるためには、目標を持ってきちんと取り組むことが大切。

【塾生の感想】

- ◆ 柳本講師の3つの“きり”が印象に残っている。特に2つ目の“きり”である「わりきり」。意識のリセットを行い、自分にプラスになるようにする、満足させてくれるのを期待せずに自分で求めるという話だ。全体を通して、周りは変わらないから自分を変えろ、ということを学んだ。周りが変わってくれば自分はラクだが、現実には甘くないし、それでは人間力がつかない、挫折しどん底に落ちた時、この講義を思い出せたら心の支えになるだろうなと思った。
- ◆ 柳本監督や竹下選手のような、スポーツの最高の祭典であるオリンピックで活躍するような強靱な精神力を持っている方でも挫折して、もうダメだと思ってしまう状況下に置かれたことがあると知り、とても驚きました。皆が笑ってしまうようなジョークのようなものをはさみながらお話はとても聞きやすく、勉強になることが沢山ありました。



名誉塾長講話「夢の実現に向けて～Never Give in～」

大竹 美喜名誉塾長

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社 創業者・最高顧問)

【内容】今日という日は人生で最も重要だという思いで過ごすことが大切。  
実力を持つには鍛錬が必要。

【塾生の感想】

- ◆ 「好きで好きでたまらないものを見つける。何年かかっても良いから。」「自分に正直でいなさい。」という言葉に感銘を受けました、大竹名誉塾長のような満足できる人生にするためには、積極的に何事もやりたいです。努力し続ければ、必ず成功すると学んだので、挑戦したいです。
- ◆ 大竹名誉塾長のお話の中で、「自分にウソはつきたくない」とおっしゃられたことが印象的でした。死ぬまで生き様を変えないという姿はとてもしりしく、尊敬しました。私も「生き様」を見つけたいです。

## 「高校生へのメッセージ」

佐野綾子 講師

国際コーディネーター

【内容】自身の経験をもとに、日本にとどまるのではなく海外へ留学という手段をもって羽ばたくことのすばらしさ。自分がいったい何をしたいのかを考えて人生を生きていきたいか。

### 【塾生の感想】

- ◆ 自分の直感を信じて、自分でやりたいと思ったことをやる勇気を持って、一步踏み出した佐野さんはすごいと思う。自信がなかったり、できないという意識をもったりしては、何もできない。私も一步踏み出す勇気を大切にしたい。
- ◆ 私が今日一番印象に残っているのは佐野さんのお話です。私は、将来国際的な仕事に就きたいと思っていて、留学を考えているので、とても勇気をもらえました。



## 講義1「未来を築くためのアフメーション」

織田 善行講師

アドベンチャーコーチング株式会社 社長

【内容】将来成功するためには、目標を持つだけでなく、その目標を書き留め、実現するための計画を持っていることが重要。最終日に塾生が自分の夢を発表するための講義。

アフメーション… 自分のやりたいことを以下の形式で言葉にすること。第一人称で書く、現在形で書く、あたかも達成したかのように表現する。

### 【塾生の感想】

- ◆ 一番印象に残っているのは最後のアフメーションの講義です。将来のことを実現して幸せになる3%の人になりたいと思いました。でもまだ夢は全然決まっていなかったので真剣に考えようと思いました。暗記のメカニズムとか色々勉強になり、おもしろかったです。
- ◆ 「努力は必ず報われる」そのことが本当に科学的な説明を持っていたことに驚いた。先生の言っていたことは本で読んだこともあったが、実際に聞くと、とても説得力があり、大変勉強になった。私も自分を信じて、自分との約束をゆるぎないものにしたいです。

## 2日目 (8月21日)

### 講義2「希望を胸に…これからの弁護士像について」

森 薫生 講師

弁護士、高麗橋中央法律事務所 大阪弁護士会 所属

【内容】弁護士の業務内容について。法曹界の仕事は、弁護士、検察、裁判官という3種類の仕事しかないのではなく、一般企業の法務課での仕事等、様々なフィールドで活躍することができる。

### 【塾生の感想】

- ◆ 今までに、法曹界にはあまり人間性のないような方が職についておられるように思っていました。しかし、長い事件にも一生懸命になって依頼者の方に寄り添い、仕事をされる事実を知り、大変驚いたとともに嬉しい思いもありました。どんな仕事にも努力と共に人間力としての優しさや協力する心が必要だと改めて感じることができました。

- ◆ 森弁護士の講義が一番印象に残りました。僕は将来の職業として法曹界、特に弁護士に興味があるからです。僕が今まで抱いていた弁護士のイメージは1つ1つの事例を担当し、それが解決すれば後は関与しないというものでしたが、講義を聞いて弁護士というのは、1つの家族、1つの会社を法律を通じてサポートしていくという職業なんだと感じました。

### 講義3「Telling Stories: The importance of speaking in English」

SHEA DAVID 講師

慶應義塾大学商学部 准教授

【内容】日本人には「英語が苦手」という人がとても多い。しかし、もっと自信を持って積極的に英語を使うことが大切。また、英語力の強化において一番有効なのは英語の本を読むこと。

【塾生の感想】

- ◆ 私達にわかりやすく英語を話してくださり、日本語も上手に話されていてすごいなあと思いました。そして特にシャイな日本人に「もっと自信を持って!!」と強く言ってくださいました。私は心の中で色々思っている、なかなか口に出せずに終わってしまうときがあり、後悔してしまうので、DAVID 講師の言葉を強く心に刻み、残りの3日と、きらめき未来塾が終わっても自分の口からはっきり何でも言えるようにしたいです。
- ◆ お話を聞いて、リーディングや話すことは大事なんだと思いました。学校の先生にも同じような話を前に聞いたんですが、あまり頭に入りませんでした。でも今回の DAVID 先生の話は興味をもてる内容で楽しかったです。普段、自分は外国の先生の話はあまり理解しようとしませんが、今回は集中してわからない単語も書き写して調べました。

### 講義4「夢を実現するチカラとは？」

黒岩 祐治 講師

神奈川県知事

【内容】自身の挫折した経験から、失敗したマイナスと思える経験こそ、プラスになっていく大きな力であること、またジャーナリスト時代の救急救命士の制度改革の話を通じて、夢を叶えるための使命感や行動力について。

【塾生の感想】

- ◆ 元々ジャーナリストでもあった黒岩先生の講義は、エネルギーに溢れていた。何度失敗しても、敵が現れても、信念を貫き通すパッションはすごい。自分のミッション（使命）を、パッション（情熱）をもってやりとげる力をつけていきたい。
- ◆ 『黒岩先生のお話はとても聞きやすく、自分の体験談をまぜていたので、とても想像しやすかったです。東京大学を3回落ちてもあきらめずに早稲田大学合格、それも自分の意志での進路だったので、僕も壁にぶつかってもあきらめず頑張ろうと思いました。また、「人のせいにはしない!」という言葉が心にささりました。僕は多々、人のせいにしてきたので、この機会に意識改革したいと思います。



### 講義5「命と平和の尊さ」

下垣 真希 講師

ソプラノ歌手、名城大学大学院多文化共生論講師、名城大学ドイツ語講師

【内容】ソプラノ歌手である講師が「ふるさと」や「Amazing Grace」「長崎の鐘」等、歌を交えながら、歌うことの楽しさや、戦争の悲惨さや命の大切さ、生きることや周りの人へ感謝することを伝えた。

#### 【塾生の感想】

- ◆ 「感謝すると人生が豊かになる」「心に栄養をあげることを忘れない」という事が心に残りました。感謝することと、心に栄養をあげるという事は、できそうで忘れていたという事がよくあるので、覚えておこうと思いました。
- ◆ 私たちは戦争を体験していないし、話を聞く機会があまりないので、貴重な話だと思いました。今は、いじめが多くて、平気で自ら命を絶ってしまう人がいます。昔は生きたくても生きられない人が沢山いたはずですが。私達は昔とは違って生きていくことが簡単にできます。だからこそ、毎日に感謝しながら生きていくことが大切だと思いました。そして教育現場で、もっと戦争について話し合ったり、講演会の機会を多くし、同じことを繰り返さないようにしていくべきだと思いました。

### 3日目（8月22日）

#### 講義6「Catch your Dreams～自分の可能性を信じて」

坂本 達 講師

株式会社ミキハウス社長室、自転車世界一周&井戸掘の会社員

【内容】会社に4年間の有給休暇を貰い自転車で世界一周をした経験からのお話。物事の成功の8割は準備、ものの見方を変えると世界が広がる、相手の好きなものを大切にすること、大切なのは「挨拶」「ありがとう」「自分の持ち味」などのメッセージがあった。

#### 【塾生の感想】

- ◆ 世界の沢山の文化のことや、食事、宗教の大きな違いに驚かされる反面、どこの土地でも人間のあたたかさ、優しさは変わらないんだと改めて感じ取ることができました。大切なのは、他人の心を受け入れる気持ちだと思います。
- ◆ 相手が大切にしていることを自分も大切にすべきだと学びました。相手というのが、会社であったり、人であったり、国であったり、大切にしているものが理念であったり文化であったり宗教であったり、難しく感じますが、そうすることにより相手をよく知り、偏見や恐れを失くしていく第1歩になるのだと感じました。『人の夢も大切にする』『人生はプレゼンテーション』などの言葉が印象に残りました。

#### 講義7「古典に学ぶ 古事記と人形浄瑠璃」

中西 英夫 講師

南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館 館長、元県立三原高等学校 教諭

【内容】編纂1300年となる古事記の、国生み神話の概要を解説。国生み神話で一番最初に生まれた淡路島、そして淡路島の伝統芸能の淡路人形浄瑠璃の起源や歴史、鑑賞の仕方についてのお話。

#### 【塾生の感想】

- ◆ 人形浄瑠璃について、深く教わりました。大阪では、文楽がとても有名なので何回も行ったことがあったけど、こんなに教えてくれたのは初めてだったので、とても嬉しかったです。

- ◆ 日本の伝統文化、特に人形浄瑠璃のような演劇系の文化に関係する仕事に興味が出てきて、5日目の野外見学がますます楽しみになりました。
- ◆ 日本の伝統文化をしっかりと後世に伝え、またすべての国民がその文化をきちんと知り、誇りに思えるようになる必要があると思いました。

### 講義8「人はすごい確率で生まれてきた」

森山 明宏 講師

大阪府済生会中津病院 産婦人科部長、医学博士、

日本産婦人科学会認定医、麻酔科標榜医

人が誕生するときの卵子と精子のメカニズムを、兵庫県・

西宮神社の福男選びになぞらえて、解説する。それを通じて生命の神秘さ、大切さを伝える。

#### 【塾生の感想】

- ◆ 今日一番印象に残った講義でした。単純に女性の体内にはえりすぐりの卵子を選ぶ本能があるということを知って、感動と同時に、女性に対して尊敬してしまいました。女性の社会的地位は男性よりも低いと自分の中で思い込んでいたが、そんな自分が恥ずかしくなった。男は女性にかなわないと思う。ディスカッションでは、胎児の命は母体から出てから「命」があるという意見があった。しかし自分は受精卵が母体の中で発生した時点で、そこには大変貴重な「命」があると思う。妊婦の人がテレビにでて自分のお腹を蹴る感覚があると言っていたし、胎児と母体はへその緒で繋がっているのだから。

- ◆ 森山講師のお話は本当に勉強になりました！もっと時間があれば、全部のお話を聞きたかったです。森山講師を見ていると心が本当に優しく、この人こそ名医なんだと思いました。『啐啄同時』という言葉は初めて聞きましたが、とても良い言葉だと私は思いました。親子だけではなく、教師と生徒、また色んなことにあてはまり、この言葉のように実際にするのは難しいだろうなと思います。でもこれを目指そうという意識を持つだけでも児童虐待やいじめなどの問題が少しずつ減っていくと思います。

### 講義9「あきらめなければ夢は叶う」

朝原 宣治 講師

北京オリンピック 400mリレー 銅メダリスト、一般社団法人アスリートネットワーク 副理事長

【内容】体を動かす講義。走り方やトレーニングの方法の指導。また、自身の経験から、諦めないことの大切さを伝える。陸上で培った体力・精神力が伝わってくる講義であった。

#### 【塾生の感想】

- ◆ 最初にトラックを走った時、私は走ることが好きなことに気づきました。ちょっと専門的なトレーニングも教えていただいて、朝原講師の走る姿も見れて、心も体も充実した時間でした。
- ◆ 朝原講師の講義では、なまっていた体を目覚めさせていただきました。私は中学時代、陸上部で 200mをしていたので、とても参考になるお話を聞いて、とても嬉しかったです。何か興味をもっていることにうちこんで、そしてそれだけじゃなく、他のことにも熱意を持って取り組んでいきたいなと思いました。



#### 4日目 (8月23日)

##### 講義10「素粒子と宇宙—マイクロからマクロまで—」

林 青司 講師

神戸大学理学部 教授

【内容】150億年前のビッグ・バンに始まる素粒子の歴史について。物質は電子と原子核（陽子と中性子）からなるという常識は修正され、電子とクォークからなる。太陽では、四つの水素原子が2陽子と2中性子がヘリウム原子を作る。その際、陽電子とニュートリノが飛び出すといった最新の素粒子理論の解説をした。

##### 【塾生の感想】

- ◆ ミクロとマクロによって表す宇宙についてでしたが、想像出来ない規模のものだと思っていたのが、実はミクロなものだと言っていたのが、とても印象に残りました。
- ◆ 反物質との出会いで光になって消えるのは、ロマンティックだと思いました。
- ◆ その時代の常識と違うことを、自分の論理を信じて発表できるのはすごいと思った。



##### 講義11「子供たちに夢を！晴れの国、岡山からJリーグへ！」

木村 正明 講師

株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ 代表取締役

##### 【内容】

人生プランの設計について解説された。30年後、どのような自分でありたいか考えることの大切さについてのお話。

##### 【塾生の感想】

- ◆ 木村講師のお話は、すごく真剣に話していたので、とても耳に入ってきました。また、僕はサッカーにあまり興味がないのですが、とても興味深かったです。木村講師への質問で「サッカー部の部員が来ない」と言っている人がいました。僕もその質問には同感しました。僕も卓球部で副キャプテンとして頑張っていました。しかし不真面目な部活で、先生もあまり来なく、その現状をどうにかしたいと思っていました。

木村講師の解答は「情熱から人は動く」との一言でした。最初は「どういうこと」と思いましたが、自分から変わらないといけないということを思い出しました。次の練習から…と、いか今日からいつも全力で取り組みたいです。



## (2) チームミーティング

### 課題1. 「レインストーム」

五線の楽譜を使わないボディーパーカッションや身近な音素材を利用した、ストーリー性のある作品づくりをグループごとに行った。

まず、「レインストーム」という既成の曲を使って説明を行う。この曲は、楽譜が読めなくても、楽器を演奏できなくても誰もが参加できる曲で、この曲独自の楽譜に従って“風”“雨”“雷”などの音をボディーパーカッションで表現し、一つのストーリーを完成させるというものである。



始めはサポーター全員で模擬演奏をする。次に塾生全員で一度演奏する。それから、この“レインストーム”を例にチームごとに新たなストーリーと独自の楽譜を創作してもらう。

30分程度の創作活動をした後、発表会を行う。題名と工夫した点を代表の塾生に言ってもらいチームごとに演奏する。

今年もチームごとにユニークな題材が多かった。

「夏祭り」「海」といった夏を意識したものが多かったが、花火を表す音は、上がる時の音を紙にマジックを滑らせる音を使ったり、口笛を使ったり、上がる音も袋に空気を入れて割ってみたりと、どのチームも工夫を凝らしていた。また「タイタニック」、「朝の歯磨き」、

「ケニアの祭り」などユニークなテーマもあった。

音探しから楽譜づくりまでを一時間でするのは、本当はなかなか難しいことだが、チームで協力し、サポーターの協力のもと、全チームが完成させることができた。この時間をきっかけに、チーム意識が高くなったように感じる。

また、終了後のチームの話し合いについての講評で、この後の講義の後のディスカッションではチームの「聴く」姿勢が高くなったように思う。



#### 【塾生の感想】

- ◆ 「ボディーパーカッション」というものを見るのも、するのも初めてだったので、最初のサポーターさん達の演奏はとても美しい音色だとうっとりしました。しかし、班で1つの作品をつくるのは、あまり上手くいかなかったと思います。話し合いも参加できてない人もいたし、楽譜も半端な出来でした、反省点は多いので、明日からのチームミーティングに生かし、より良いものにしていきたいです。
- ◆ 音楽のレクリエーションの演奏で1位をとれたことは、めっちゃ嬉しかったけど、評価されていたHチームのように相手の意見に耳を傾けることがまだまだできていなかったの、明日はそこを重視したいと思います。
- ◆ Hチームは楽譜賞と演奏賞をそれぞれ2位でW受賞しました。Hチームは特に賞をとろうという気はなく、「良いものをつくりあげよう！」という気持ちを自然と皆が持っていました。積極的に1人1人が音をだして、「これはどうだろう？○○の音っぽくない？」など、テーマの「夏」の音を皆で必死に探しました。その時、波の音に段ボールの小さな箱にいれたシャープペンの芯を沢山入れてゆらした時で表現していましたが、音が小さいことに気付きました。するとサポーターさんがマイクを急いで持ってきてくれました。こうして、Hチームは一致団結してがんばりました。



## 課題2. 「チーム旗づくり」

今年で3回目となるステンシルを用いてのチーム旗作り。

ただ絵や文字を直接書くのではなく、作業工程を増やすことによってチーム全員が参加して取り組んでもらうために、「ステンシル」という、紙を切り抜いて形や模様を写す技法を課題として取り入れている。

今年は、チームの人数が11人から12人という大所帯なので、旗となる布のサイズを大きくした。旗作りの時間が少ないため、完成できるのか少々心配だったが、小さいと布からあぶれてしまう子もいると思い、昨年より大分縦幅を広くした。

3日目の朝のチームミーティングの中で説明をし、図案を考えてもらう。そして午前1つの講義を終えた後のミーティング1時間で制作をする。

「布を切ってもいいですか？」という質問があった。今までになかった工夫をするチームがあらわれた。人数が多いと、1チームに1人は、絵や工作が得意な塾生がいるようで、例年よりクオリティーが高いものになりそうである。布を翼の形に切り抜いているチームや全てをステンシルで仕上げるチーム。文字をステンシルしたチームは明朝体なども上手に切り抜いていた。

課題1の時に比べ、話し合いをするということに慣れてきて、人の意見を聞くという態度が生まれてきたようで、より多くのアイデアを出し合うことができていたようだ。ボディーパーカッションの時とは違った子が活躍していたのも印象的だった。

「自分のアイデアが採用されて嬉しかった」「自分の案が認められた時とか、それに他の人の意見が加わってよくなっていくことがとても楽しいと思った。」話し合いや協力することの楽しさ、そして大切さを学んだようだった。



どのチームもこだわってつくっていて、時間内にはとても終わりそうになく、翌日の朝の時間も旗制作に使い、全チームが完成することができた。

いつも問題になる後片づけだが、ゴミの始末や道具の片づけはほとんどができていた。ミーティングの会場と講義会場が離れているため、早めに移動をしないといけないので、最後はサポーター達で机についた絵の具をふいたのだが、次回からは、きちんと最後まで後片付けを終了できる時間をとりたい。

### 【塾生の感想】

- ◆ 旗づくりでは、私のデザインが採用され嬉しいより、こんなクオリティでいいののかの気持ちが強かった。自分が指示をだす立場に立って皆と関わって良かった。周りの協力のおかげでサクサク進んだ。各自が役割を持ってチームに貢献できるのは楽しいと思った。
- ◆ チーム旗づくりでは時間内に終われなかったけど、すごくいい旗ができそうです。皆で力を合わせて作業するのはとても楽しくて良い時間を過ごしました。この時、皆と仲良くなった気がします。美術が苦手だけど、自分にできることを探して動けるようになりたいと思いました。





### (3) レクリエーションについて

#### バス中カリキュラム「アイスブレイキング」、レクリエーション

前田 嘉昭 講師（専務理事）

レクリエーション担当サポーター：宮地 賢和、長倉 愛、福井 智恵子

音楽担当サポーター：高崎 翔平、石松千咲、杉本結衣

#### ① バスレク

バス内カリキュラムのアイスブレイキングでは、専務理事でもある前田嘉昭講師とレクリエーション担当サポーター・音楽担当サポーターが二台のバスに分乗し、途中のサービスエリアでバスを乗り換え到着までの約一時間程度づつ、レクリエーションと音楽を行った。

レクリエーションは、まず始めに前田講師が導入のお話をする、それから行き先のフィールドを知るための淡路島クイズや、全員が参加できるゲームを中心にじゃんけんゲームや声出しゲーム、またキャンプファイヤーで歌う「世界中の子供たちが」の練習をおこなった。歌は、コミュニケーションツールの一つである手話を取り入れながら歌った。

バスの中の雰囲気にも違いがあり盛り上がり方に差があったが、サポーターをはじめ、時間の進んでいく中で盛り上がりも出始めた。

反省としては、1号車と2号車のサポーターの配置や人数の差で説明が分かりにくかったように思うので改善が必要だと思う。また、手話歌を行ったときに模造紙にあらかじめ歌詞を書いておくなどの工夫も必要だと思う。

音楽は、キャンプファイヤーの時に歌う合唱練習を中心に計画を考えていたが、塾生同士がまだ出会う間もない時なので、歌の練習の前に無理なく参加でき、良い雰囲気作りになるような音楽レクを行った。

「リズムで自己紹介」は例年やっているが、前の座席から順番にマイクを回し、自分のチーム名と名前（ニックネーム）を4拍子×2の間に入れる。初めの4拍で「○チーム」と言い、後半の4拍で「○○」というニックネームを言う。続いて全員が同じことを復唱するという名前リレーゲームである。2号車で、バス内のマイクが後半使えないというトラブルもあったが、聞こえない分のフォローを周囲のサポーターさんや塾生の協力を得て最後までつなぐことができた。

塾生の様子としては、最初は朝も早く、塾生同士も出会ったばかりで緊張している様子だったが、音楽レクをやっていく中で次第に雰囲気が和み、声もでてきていた。去年は一人でキーボードを弾き、進行しなければならなかったので十分な音を塾生に提示出来ず、後ろの座席の塾生まで目が行き届かない問題があったが、今年は音楽レクのサポーター3人で役割を分担して進行したので、とてもスムーズに行うことができた。

#### 【塾生の感想】

◆ バス内のレクではサポーターの人たちがすごく、皆が楽しめるようにすごく考えてくれているのがわかりました。サポーター1人1人が頑張っているから、全体が盛り上がるし、自分も講義をしっかり聞いてがんばろうと思えました。今までで一番、たくさんの知らない人と会っているのに、今までで一番早く打ち解けられたのが不思議な感じです。

◆ バスでは知らない人ばかりで少し心配していましたが、レクリエーションで1つになれた感じがします。リズムにのせて、あだ名を言ったり、歌ったりと少し恥ずかしいところもありましたが、みんなと仲良くなれて良かったです。やはり音楽の力はすごいと感じました。



## ② 朝のレクリエーション

今回は敷地がとても広く体操の集合場所に来るだけでも時間がかかってしまうのに遅刻者はゼロに近かった。体操の内容としてはまず簡単な運動やストレッチをし、そこからグループ単位、全体で体を動かすようにして、他のチームの塾生やサポーターとのコミュニケーションのきっかけ作りもできたのではないかと思う。声を出すゲームや体を大きく動かせるゲーム、チームの団結力を試すゲームなどを行い、体も頭も目覚めさせることができた。

グループ全員で円になり向かい合った人を手をつなぎ、もつれたものをほどいていく「人間知恵の輪」というゲームでは、チームワークが試されるのだが、制限時間を過ぎても、諦めず皆で声を掛け合って一生懸命ほどこうしていた姿が印象的だった。

また、3日間通して、キャンプファイヤー時に歌う、手話をしながら「世界中の子供たちが」を練習したことも朝から皆の一体感が出ていてよかった。

小ぶりの雨が降った時、室内でするか野外にするかの判断が分かりにくかった時、宿舎が離れていて連絡が取りづらく、集合に手間どってしまった日があった。宿舎が離れている場合、それぞれの連絡係をきちんと設定しておくべきであった。



## ③ 合唱

今年は「Believe」と「風になりたい」を選曲した。練習は、行きのバスや朝のチームミーティングの時間などを利用しておこなう。

「Believe」は小学校や中学校でなじみのある曲であるとともに、「共生」をテーマにした歌詞で「仲間とのつながり」や「未来を信じて進む力」を歌っているため、このきらめき未来塾にリンクするところがたくさんあると思い選曲した。バス内でも知っている塾生が多かったため非常にスムーズに進み、1号車ではハーモニーをつけている塾生もいた。

「風になりたい」は、もう6回目の選曲になるが、キャンプファイヤーの最後にサンバのリズムのボディーパーカッションを入れることで、アレンジを加えたりして盛り上がり終えることができるため選曲している。この曲も知名度が高いため、練習がかなりスムーズだった。



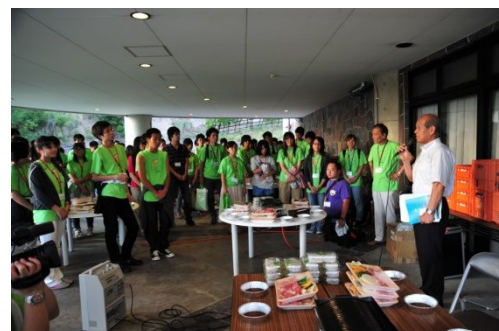
また、今年度は人数が多いこともあったと思うが、かなり質の高い演奏ができていたと思う。

声の大きさはこれまで合唱をしてきた中で一番だった。それだけではなく声の質、歌詞の立ち方など大変よいものに仕上がっていたと思う。キャンプファイヤーの最後では、全員が輪になって肩を組み、ほとんどの塾生・サポーターが歌詞を覚えて歌っていて一体感があつた。

## ④ バーベキュー・キャンプファイヤー

野外学習を除く、すべてのカリキュラムが終了し、お楽しみのバーベキューとキャンプファイヤーを行う。

洲本市の河上和慶教育長のご挨拶で始まり、塾生達へ激励とともに、淡路島の牛乳とヨーグルトという差し入れもくださり、塾生達はますます元気になっていた。スタッフを入れると120人程の人数にとって、バーベキュー会場が狭くテーブルも少ないので心配していたのだが、天候もよく、そんなの気にならないという風にはしゃぎながら肉を食べていた。



途中、4日間の生活態度をチェックするK（活発）報告とチーム旗の受賞チームを発表した。K報告は、事務局とサポーターがチームの合宿生活における態度や行動をチェックし、集計を行い、上位3チームを表彰する。チーム旗は、理事長、塾長、事務局長に1つずつ選んでもらい、それぞれのお気に入り賞として発表する。



皆、ドキドキしながら発表を聞き、受賞したチームは全員で喜ぶ。チームのメンバーの絆が一層深まったようだった。

チームミーティングで行ったボディーパーカッションを入れると、ほとんどのチームが表彰され、賞品を手にしたようだった。塾生の感想をみても、「表彰される」ことは、達成感を味わえ、自分自身の自信にも繋がる。そしてチーム皆で力を合わせてとった賞は、何よりの思い出になるだろう。

キャンプファイヤーは、塾長の点火で始まり、レクリエーション担当サポーターの進行で、ゲームとチームの出し物を行った。

レクリエーションサポーターは、もう何年も参加してもらっているベテラン達なので、準備や企画も任せきりだったのだが、自ら動いて仕切ってくれたので、とても頼もしかった。

チームの出し物は、練習する時間がほとんどなかったのだが、各グループすごく個性的な発表で、行う側も、見る側も、全員が楽しんでいた。

開塾2日目に雨が降り、水はけが悪いためファイヤー場の状態を心配したが、問題なく行うことができた。90人を超える大きな円でのキャンプファイヤーでは、マイクを使っても、なかなか声が届きにくく、大変だったようだが、塾生達は、話を聞く時と盛り上がる時のメリハリがきちんとできていて、レクサポーターの声に集中していた。

キャンプファイヤー最後では、練習してきた「風になりたい」「Believe」の合唱で締めくくる。

音楽担当のサポーターの他に、ギターを弾けるサポーターもいて、ピアノ、ギターの音楽と共にみんなの距離も自然と近くなっていった。今年は全体的に大人しい塾生が多かったので、肩を組んで歌を歌っている雰囲気の時、この5日間でできた強い絆ができていることを実感した。



#### 【塾生の感想】

- ◆ バーベキュー&キャンプファイヤーは言葉に表せないほど楽しかったです!!  
私たちのチームはダンスだったのですが、練習も全然できていなくて、不安だらけだったのですが、皆盛り上げてくれるし、皆笑顔だったので自然に笑ってしまいました。笑うことの大切さを知りました。
- ◆ キャンプファイヤーはみんなそれぞれ協力しておもしろい出し物が出来上がっていました。だんだん小さくなっていく炎を見てもう終わるのかと思うと悲しくなりました。でもみんなで声を合わせて歌うのはとても気持ち良かったです。
- ◆ キャンプファイヤーでは時間が少ない中、みんなで考えたダンスを発表できて、本当に楽しかったです。他のチームの発表も本当におもしろくて、あんなに楽しんだのは久しぶりでした!最後に、キャンプファイヤーを囲んで歌った「Believe」「風になりたい」は一生忘れないと思います。このきらめき未来塾で、夢を共に語る友達を見つけられたことが本当に良かったです!



#### (4) サポーターと未来塾OBによるパネルディスカッション (8/21 19:00~実施)

3年前から、参加塾生の強い要望により、大学進学、就職といったキャリア形成について、大学生サポーターと対話するパネルディスカッションをカリキュラムに取り入れている。

本年は、「キャリア・職業観」「語学・留学」「今後のキャリア」の3つのテーマについてディスカッションを実施した。

グローバル化の時代を迎え、塾生にとって、語学、海外留学は関心が高いことから、コーディネーターを未来塾事務局アドバイザー小松としる様お願いした。

パネラーは、2005年の第一回未来塾の卒業生で、現在ニューヨークフォーダム大学大学院横山雄一さん、アフラック 沖本尚子さん、RCC 文化センター 辻井浩史さん、国際コーディネーター 佐野綾子さんの4名の社会人をお願いした。

本年はニューヨークからのパネラーの参加があったことから、Skypeを用いた。

ディスカッションでは、未来塾をワンステップとして、現在米国に留学している横山さんの話は、どのように留学を計画したか。現在米国で学んでいること。そして、今後の目標に向けて準備していることなど身近に感じられることが多く、塾生にとって最も刺激になったようだ。

国際コーディネーターの佐野さんは、米国インディアナ大学に進学、卒業後、台湾の師範大学に語学留学し中国語を学び、帰国後電通に勤務。ロータリー財団国際親善奨学生としてビジネススクール INSEAD に入学。と国際経験豊かであり、勇気をもって海外に飛び出したことにより、自分の視野、世界が開けたことを語っていただけ、塾生の一步踏み出す勇気を与えるとともに、海外でキャリアを積んでいる佐野さんの経験、体験は大変参考となったようだ。

国内で社会人として働いている、沖本さんは社会人2年目ということもあり、塾生にとっては一番近い存在として、学生と社会人の違い。現在担当している仕事内容や意義について語っていただいたことで、働くという意義について理解いただけただけのものと思われる。

辻井さんは、社会人としての経験、さらに、職業経験も豊富であることから、自分の本当にしたい仕事を見出す道のりについて語っていただいたことは塾生にとって、人生回り道をして最後には自分のやりたい仕事にたどりつけるという事例を示してくれるものであった。とかく海外に目が向くなかで、日本国内にも魅力ある仕事があることを語っていただいたことは、いろいろな選択肢があることを示唆できるものとなった。



冒頭パネリストから塾生の皆さんに伝えたいこととして

沖本さん「沢山のことに興味をもって、自分の好きなものを沢山作って、可能性を大きく広げて欲しい。」

辻井さん「色々な話をさせて頂くと思うのですが、夢のある人もない人も、これからやりたいことと自分の適性を、ゆっくり時間をかけて見極めてほしい。」

佐野さん「これから、自分のやりたいことを目指して頑張りたいと思いますが、周りを支えてくれる人の感謝を忘れないでほしい。自分が忙しいと周りの人に気づかなくなってしまう、忙しいという字は、「心を亡くす」と書きます。自分の頑張る過程でも、周りへの気遣いを忘れないでほしい。」

横山さん「未来塾に参加して、将来について考えることに役立ったことは、平和に貢献するという人生の目標・夢が見付かったというより、普段会えない色々な人と出会って話げできた。講師のお話や、高校同士の交流は少ないが色々な学生と出会って、たくさんの思いや背景をもっていることを知った。

現在、アメリカで国際開発について学んでいるが、国際交流を行い、色々な場所で、色々な人と交流し、平和について考えているなかで、その未来塾での経験は、国や人種ではなく個人と接することという、自分の考えの中に生きている。」とメッセージを送った。

ディスカッションを終え、塾生からは

- ◆ サポーターの先輩方のお話は、普段、実際に就職した方々の話を聞く機会はないので、貴重なお話を聞かせていただきました。
  
- ◆ 今日最後のパネルディスカッションでは、横山さんのお話が大変印象に残っています。奨学金を上手く利用することで経済的な負担を軽くする、もちろん学習の面で大変な努力が必要かと思いますが、そのように自分で一歩踏み出すというのはすばらしいことだと思います。私が目指す仕事には国際化が進むにつれて英語が必要になります。英語をネイティブと同じように話すことができれば必ず活躍の場は広がり、自分にとってプラスになると思います。海外へ行くのが早ければ早いほど良いのかは、まだわかりませんが、自分に合った道をさがしていければと思います。
  
- ◆ 今までは、英語がなぜ必要かということあまり考えたことがなかった。出ていくグローバル化だけでなく、受け入れるグローバル化という言葉も心に残った。
  
- ◆ パネリストの沖本さん、辻井さん、佐野さんの話に共通して言えることは、様々なことを学んでいくということでした。大学でも1つのことだけではなく様々なことを体験していくことが大切だとおっしゃっていました。そして一度は外国へ行ってみるのが自分の視野を広げる要となっていくとおっしゃっていました。横山さんはやはり現役の大学生だけあってとても目が輝いていました。やはり苦手だからやらないではなく、興味や関心をもつことであそこまでやれているんだなと思いました。勉強できるのはたしかに大切だけど、それを使ってコミュニケーションをとれる能力の方が重要だということがわかりました。
  
- ◆ もっと視野を広げたい！そう思った。横山さんのお話は本当に刺激的だった。大学の4年間は、これからの人生で本当に大切になる。そこでの学びを将来に生かせる、そんな学科にいきたい。将来使えないような学問を学んで4年間行くようなことはしたくない。だからしっかり本当に好きなことを探し、好奇心を見つけたいと思う。
  
- ◆ サポーターや先輩の話聞いて思ったことは、全てがこれからの人生において、とても大切なこと、生きるヒントを教えてくださいました。それに海外について留学についてなども教えてくださいました。そのような話を聞いていると留学というのにとっても興味がわいてきました、様々な肌の色をした、様々な考え方もった外国の方とのふれあいが、とても素晴らしい人生の1ページになると思います。これからも様々なことを吸収していきたいです。

といった感想からも、示唆に富む、実りの多いものであったこと、さらにパネリストの伝えたい思いが伝わったことが推察される。



ディスカッション終了後、パネラーの、横山さんからは「高校生の皆さんと様々な話しをするとともに、たくさん話をして頂けてよかったですと思っています」というコメントとを寄せていただくとともに今後、塾生ともメッセージ交換を申し出ていただいた。

また、コーディネーターを務めていただいた小松様からは、「パネリストの横山さん、沖本さん、辻井さん、佐野さんのそれぞれの経験のお話しは、塾生へ具体的でありそして大きな指針になったことと思います。塾生の先輩である横山さんの Skype でのご参加はきらめき塾生にとって学び考えることと行動力の重要性を感じられたことでしょう。きらめき塾生がそれぞれの一步を踏み出し、様々な「出会い」に学び、きらめき未来塾の大きなグローバルの輪が出来ることを期待しています」と総括していただいた。

全体を通じ、パネリストの年齢、経験などバランスが取れており、多角的にディスカッションできるとともに、塾生からの質問にそれぞれの立場から回答いただくことで、塾生の考える要素、選択肢が広がったことからよき人選であった。

また、コーディネーターの小松様は、本塾の英語教育の講師、講義内容についてアドバイスいただいております。米国の教育事業についても精通されていることから国内外でのキャリアについてセッションするとともに、様々な角度からディスカッションを展開していただいただけ適任であった。

このパネルディスカッションを通じ、日頃ぼんやりと考えていた将来像について、塾生自身がいじくりと考える時間となったものと思われる。実際に海外で学んでいるひと。また、社会に出て仕事をしている先輩に直接質問をできる機会となる本セッションは、塾生にとって今後も重要なカリキュラムの1つとなると考える。そのことは予定時間を上回るほど積極的に質問があがったことからその効果は推察できる。次年度以降もさまざまな手法をとりながら、充実したセッションを設定していきたい。

## **(5) 東日本大震災から1年半 被災地の現状 私たちにできることとは (8/22 19:00~実施)**

今年も昨年に引き続き、東日本大震災の被災地 宮城県の招待枠を設け、登米市市役所のご協力のもと、同市にある宮城県立佐沼高校から2人の生徒が参加した。

また、それに加え福島県からの招待枠も設け、福島県教育委員会の後援を得て、福島県立双葉高校、福島県立小高商業高校、福島県立小高工業高校から、1人ずつの生徒が参加した。

昨年の未来塾では、登米市と南三陸町に住んでいる高校生が参加し、大震災がおこってまだ半年もたたない時期に、自身の被災体験やボランティアをしたこと、宮城県の状況を塾生全員の前で話してくれた。そのことから、今年の3月に、関西に住む卒業生数名が中心となって南三陸町に行った。そして、現地では宮城県に住む卒業生を含む高校生達と共に、瓦礫撤去や仮設住宅での炊き出しや交流会を行った。

そこで生まれた、関西と宮城県の高校生同士の繋がりや、被災地の人々に希望や勇気をもらったことを伝えるとともに、東北の高校生達に現状を語ってもらい、東北の復興そして日本の将来について考えていこうというテーマで時間を設けた。

プログラムは、三部構成とし、第一部は 震災からの復興とし、始めに「将来の日本、求められるリーダー像について」というテーマで“アスリートネットワーク in すもと” 理事長 三倉二九満様にご講演をお願いした。三倉理事長は、前洲本市教育長であり、今回の開催にあたっては多大なご協力をいただいた。

三倉理事長は、洲本市は17年前に阪神淡路大震災、そしてその後、台風の豪雨による大きな被害を受けた。その中で首まで浸水した老夫婦の救出にあたった等、具体的に話され、

「大震災から1年半経過して我々は何をすべきか考えるべきです。

『ノーブレス・オブリージュ』という言葉があるが、恵まれた環境にある者は苦難にある人に率先して命をなげうってでも立ち向かうという精神のことです。

ある意味、塾生の皆さんはきらめき未来塾に参加できるという恵まれた境遇にある、率先して被災地の復旧や被災者救援等真剣に考え、取り組んでほしいと思います。

きらめき未来塾の基本理念に「強い責任感と行動力のある『心強き人』『思いやりを持ち共生できる『心清き人』があります。未来塾8期生として心強く清い人になってください。とのお話があった。

次に、東北の高校生の引率として参加頂いた、福島県立小高商業高校 影山雅敏先生からお話ただいてから、福島県、宮城県から参加した5名の塾生達に、被災地の現状や復興の様子について、発表してもらうことにした。

影山先生は、話の内容が大震災当時発生時の状況の詳しい説明を話していただいた。

続く塾生5名の話では、詳細の状況の話で辛い経験を思い出し、感情が高ぶってしまったのか、発表時に、泣き出して言葉に詰まってしまう生徒や、声を荒げたりする生徒が見られた。

それらの発表を聞いていた塾生達は、1年が経過しテレビのニュースでは取り上げることも少なくなったが、東北にはまだまだ深い傷跡が残っているのを知り、それを伝えて皆で復興を支えていなかいといけないと強く感じたようだった。



しかし、この時間の趣旨としては、復興にかける思いなど、未来への希望につなげるお話をして頂きたかったのだが、影山先生と、あまり打合せする時間がとれず、お伝えすることができなかった。当初の企画、計画とずれてしまったのだが、現状を知る上ではよいセッションであったと思う。

第2部は、きらめき未来塾の卒塾生有志が中心となって行った南三陸町での支援活動の報告である。発表者は、支援活動に参加し、本塾にはサポーターとして参加してくれている、甲南大学3回生 板垣雄大君、立命館大学1回生 浮氣菜摘さん、この時間のために来てくれた 大阪経済大学1回生の伊東直人君、そして、活動記録のために引率し、自らも支援活動を行った事務局の宮城裕美さん。

最初に、宮城さんが写真で南三陸町と支援活動の様子をパワーポイントで写しながら、説明をした。それから、三人が順番に発表する。

浮氣さんは「自分に何ができるんだろうとと思っていたけど、被災地で交流した人から連絡があって、元気をもらえたとか、嬉しい言葉を沢山もらった」

板垣君は「漁港の手伝いをした時、漁師さんが言ってくれた言葉に心をうたれた『ボランティアとかじゃなくて、ただ遊びに来てほしい』義務感とか自己満足という気持ちだけしかなかった自分を情けなく思った。」

井東君は『行く前は、自分が行って何ができるのだろうかとすごく悩んだが、地元の高校生を協力して支援活動をした時、明るく振舞ってくれて逆に勇気もらった。仮設住宅に行った時も、僕達が励ます側



なのに、温かく迎えて貰って、僕達が帰る時も「楽しかったよ」とか、「ありがとう」と声をかけてもらって、嬉しかった』

皆、支援活動によって、被災地の人達に勇気もらったこと、教えられたことを話してくれた。そして、3人に共通していたのは1歩踏み出して行動する大切さ、そして小さなことでも、自分にできることから始めてみることに。単に活動の報告ではなくて、先輩達からのメッセージをしっかり受け取ってほしいと思う。

第3部は、支援活動によって年代の違う卒塾生達が繋がる機会が持てたように、全国の卒塾生同士のネットワークをつくっていくためのOBOG会の創設をすることとなった。

その設立実行委員を募るため、卒塾生代表として、サポーターとして参加している中村容子さんが、呼びかけを行った。

最後は、吉澤塾長から、「この『被災地の現状を知り、私達にできること』を考える時間のなかで、塾生の皆さん一人ひとりが、自分に何ができるのか、そして実践するにはどうすべきか等々、真剣に考えたことが大きな収穫であったと思います、これからは、小さなことでも良いから、責任感のある行動力で実践してほしい」と講評と総括があった。

塾生全員が、将来の日本を担う一員として、講演や、発表者の意見をそれぞれが受け取り、真剣に考えた時間となった。

#### 【塾生の感想】

- ◆ 震災についての話では、今まで思っていた東北の状態より、やっぱり直接体験している人たちの話を生で聞いた方が、被害の深刻さもわかって、より心に響きました。自分達が今できる復興への協力をさらに進めていなければいけないなど、改めて感じました。
- ◆ 震災は他人の問題ではなく、自分たちの問題だということを再認識した。まだまだ復興は進んでいないので、力を合わせて助け合わなければならない。人との関わりは、ものではなく、心であると思う。もう一度、普通に家族と暮らせる、友人と話せる、学校に行けることに感謝したい。
- ◆ 今までは、どうしても震災の話は対岸の火事のように考えてしまっていたのですが、今回の話はとても生々しく、心に突き刺さりました。また風評被害の話聞いて、外国の人への差別ももちろんいけません、同じ国の人々を差別するような人がいることにすごく怒りを覚えました。
- ◆ 私は同じ生徒たちの話を聞いて、自分が憎くてたまりませんでした。東北の震災において自分はどこかで軽々しく考えていたと気づいたことです。今できることは正直少ないかもしれませんが、ただ私が今回本気で感じたことを生徒会として何かできることはないかと思えます。生徒に伝えることは私の役目でもあると思うからです。大事な友のこととして。今回の講義では本当に大切な大事なことに気づかせてもらいました。これから私自身を変えていきたいです。



## (6) 野外学習

最終日の野外学習は、淡路人形浄瑠璃と鳴門海峡の渦潮の見学を行った。洲本から南に進み、南端の福良港の近くにある、淡路人形浄瑠璃館で鑑賞のあと、鳴門海峡をわたり、鳴門公園にある渦の道チームで歩いて渦潮を見学するというコースにした。

開催地淡路島の、「文化」と「自然」両方を体験してもらうことがねらいである。

淡路人形浄瑠璃は、五百年の歴史を持つ国指定重要無形民俗文化財である。日本の国産み神話によると伊弉冉尊、伊弉諾尊が最初に産んだとされる淡路島は、神々の加護や豊作豊漁を祈る祭りや、神々に奉納する芸能が数多く受け継がれており、人形浄瑠璃もその1つである。

美術品としても価値のある人形を三人で使い、三味線で拍子を取りながら語る物語である浄瑠璃に合わせて動き、感情豊かに織りなす劇は、素晴らしい芸術品である。日本の伝統や芸術文化に触れる、とても良い体験となる。

人形浄瑠璃を見学するだけでなく、上演前には、人形の動かし方の説明や、3名が代表で前にでて、実際に人形遣いの体験もできた。人形を囲んでの記念撮影も行った。

演目は、塾生達には台詞が聞き取りづらいだろうという考えから、前に色々な人形が出て視覚的に楽しいものというリクエストを聞いていただいたのか、「日高川入相花王渡し場の段」という、嫉妬に狂った女が大蛇に姿を変えて川を渡り泳いでいくお話だった。

4日間の疲れもあり、集中力がなくなるのを心配していたが、ワイワイ騒いでいた塾生達が、公演が始まると、一気に静かになり、芝居に見入っていた。

事前に予備知識を学んでいたことが良かったのかもしれない。淡路人形浄瑠璃館を、下見に行った際に、淡路人形浄瑠璃の歴史や知識についての基礎レクチャーをお願いできないか、訪ねてみたところ、淡路人形浄瑠璃資料館の中西秀夫館長をご紹介頂いた。中西館長は、元高校教諭ということもあり、塾生が解りやすく興味をもてるように、お話いただけるだろうという思いから、講師としてカリキュラムの「古典に学ぶ」も担当していただき、古事記の国産み神話についてのお話もして頂けるようお願いをし、快諾頂いた。



講義で、日本の伝統芸能の素晴らしさを知り、「今まで何を言っているのかわからなかったけど、とても深い文章できれいなのに惹かれた」、「人形浄瑠璃の見学が楽しみになった」という声があった。塾生達に興味や関心を持たせることができてよかった。

芸術作品や音楽は、それが作られた時代や背景を知ることによって、より鑑賞を深めることができる。伝統文化は、それが生み育てて、受け継いできた土地や人々を知るとはとても大切なことである。

渦潮の見学は、鳴門海峡を渡り、徳島に入り鳴門公園にある「渦の道」をチームで見学した。「渦の道」は鳴門海峡に架かる大鳴門橋の橋桁内(車道の下)に造られた海上遊歩道である。海上45メートルのガラス床からのぞき込んで、渦潮を見ることが出来る。スケジュール的に、満潮の時間を過ぎてしまっていたのが残念だったが、見下ろした青い海は圧巻であった。1チームの人数が多いせいか、分かれてしまったチームもあったようだが、サポーター、塾生皆が会話をしながら楽しんで見学をしていた。



## 9. 塾生の指導について

### (1) K報告について

きらめき未来塾は、塾生を10人程度のチームに編成し、チーム単位として活動しているため、講義、ディスカッション、レク活動等々すべてチームがまとまって行動する。

過去に、チームのメンバーの中に消極的な人もいたり、チームで行動しているという意識が希薄なために、バラバラになったり、お喋りに夢中になったりして、5分前精神が守られないことや、遅れる可能性があってもダラダラ歩いている姿が見受けられたこともあった。

日本の将来を担う塾生に強制力をもって指導するのは不適切であるが、だからといってダラダラさせるのもよくない。

そこで今回は、Kappatsu（活発）報告＝「K報告」と名付けて、合宿中の生活態度をチェックすることにした。

全サポーター、全事務局員が、あらゆる活動場面で、全チームの活発度を採点してもらうことにし、初日から4日間、報告を求めた。これには、チームとしてのまとまり、協力度合、チーム内のディスカッションの活発さ、5分前精神の遵守状況等々について、チームごとに、毎日採点、報告してもらった。

また、初日のオリエンテーションの中で塾生全員にK報告を採点し、優秀な上位3チームを表彰しますとオープンにした。

この結果、今年は活発さ、5分前精神遵守、前年にない効果があらわれた。移動時に駆け足で会場に向かう姿もみられ、タイトなスケジュールであったにもかかわらず、前の時間が延びてしまった時も、次に遅れることがなかったのは驚きである。

この採点集計で、上位3チームはBBQの時に表彰され、会場は大いに盛り上がり、一石二鳥の効果があった。

### (2) サポーターについて

塾生達のチームには、大学生や若手社会人をサポーターとして、配し、合宿生活や学習などについて、助言してもらうことにしている。

今年度は、昨年のような色々なチームを担当するローテーション制ではなく、1人のサポーターが1チームを担当し、前半後半で交代するという形にした。

そのため、昨年のようなチームの壁をとりはらったような関係は少し薄かったように感じた。これは、毎年課題になっていることであるが、昨年は、まとめ役になる生徒が、皆をまき込んで引っ張っていくことが多かったこともあり、塾生全体の交流ができていた。今年度は、全体的に大人しかったせいもあり、チームのまとまりはあったが、他チームや担当以外のサポーターとの交流があまり見られなかった。食事を2チームずつ合同にすることや、レクやディスカッションを2チーム混合するなどセッティングするなど、来年度はチーム内の交流で終わらないよう、工夫していこうと思う。



また、今年度は人数が多く1チームが11～12人であったため、チームの中だけでも仲のいい子で固まってしまう傾向にあったので、そうならないようサポーターが工夫してくれていた。あるチームでは、毎回の講義、食事の時の座席を入れ替えるようにし、男子も女子も奇数だったため、座席がどうしても中途半端になってしまうので、くじ引きで席替えを毎回行っていた。

AからCチームは、食事会場が同じ会場だったため、一日目だけ「ご飯・お味噌汁・お茶」の準備の説明をして、「いただきます」と「ごちそうさま」を3チーム一緒にする→食事後は同じ

種類のお皿をまとめる流れをサポートが作り、「いただきます」の号令は、選ばれたら自己紹介をしてから号令をかけ次の人を指名する。次の日から、サポートの指示なしで全員が協力して食事の準備や号令をしていたようだ。

学生、社会人と色々なサポートが来ているので、講師より身近な人生の先輩として、塾生と沢山、会話をし、交流をしてほしい。サポートには、自分の担当チームに関わらず、話しかけたり、指導もしたりするように促しているのだが、サポートにとっても、高校生と接するのが初めてという人多く、担当のチーム以外まで、声をかけたりするのは、なかなか難しいようである。

### (3) 講義・ディスカッション・チームミーティング

講義に関しては、様々な分野の先生方が講義されたので、自分の興味のある分野に関わりのある話を聞いた塾生が多かったのではないと思う。

塾生達は、どの講義も熱心にノートを取り、聞いていた生徒が多かったが、関心の低い講義に対しては、あまり聞いていなかったり居眠りしている塾生も見受けられた。基本的には塾生のモラルの問題であるが、いつもは、サポートが講義態度をチェックできるよう塾生と座っているのだが、



今回は会場に対して人数が多かったため、サポートは後ろに座っていたため、講義中にそういった生徒を注意することが難しい状況があったせいもあるだろう。次回は、座席にもっと余裕を持たせたい。

また、講義に対してのモチベーションが低いように感じる生徒も見られた。来年度は、会場の規模や、チームに適する人数を考えて、人数を少し減らすことも検討しているため、入塾時の選考方法の再検討も大きな課題である。

講義後のディスカッションについては、回数を重ねるにつれて、活発な意見交換がされ、非常に中身の濃いものになっていたチームが多かった。

テーマは講師の方々に設定していただいていたが、高校生にとっては難しいものもあったので、自由な意見の発表・交換を行ってもらうことを前提にしながら、二択で意見交換ができるものがあれば、より相互に意見を言いやすくなるのではないかと感じた。

最初は、サポートに仕切ってもらったが、2、3回目からはチーム内で司会を決め、その塾生を中心にディスカッションを進めていたので、サポートは所々で助言をするぐらいになっていた。

チームミーティングでは、練習時にもしっかりと役割分担をし、協力して取り組む姿勢が見られた。少し時間が足りなくなる場面が多かったため、サポートには、時間配分に気を付け指導するようお願いしていた。しかし、塾生にとっては、短時間の中で協力して終わらせなければならないことが、団結力を強めるのに役立っていたようだ。特に、旗の作成の際はタイムキーパーを含め全て塾生で役割分担していたチームもあった。

チームによっては、一人ひとりの関わり具合に大きく差が感じられるところもあったが、ミーティングやディスカッションを重ね、チーム意識が高まるにつれ、意見を出し合い、協力することの大切さやおもしろさも学んでいったようだった。

アフメーションのような個人ワークでは全員がかなり熱心に取り組んでいた。個人の夢の発表を見ても、塾生が夢や目標を持つことの大切さを実感し、真剣に自分の将来について考えているように感じた。どの生徒も初日とは見違える程自分に自信をもった表情で帰っていったように思う。



## 10. 塾生の声

### (1) 4日間の感想(「振り返りシート」から)

『自分はこのきらめき未来塾で、人に伝えるということの大切さを身にしみて感じました。ここに来る時は、ずっと勉強で講義を聞くばかりでしんどいなと予定表を見て思っていました。でも入ってみると今までの自分の物事の考え方ががらりと変わりました。少し意識を変えてみるだけで自分の心のモチベーションがぐーんと上がりました。一番意識しないといけないと思ったことはすべてのことを「当たり前」と思わないことです。このきらめき未来塾に参加させてもらったことも「当たり前」ではなく支援して下さる方々、行事を取り仕切って下さった事務局の人、自分達にヒントをくださったサポーターの方々、他にも多くの方が全てをサポートして下さったおかげでこのような、高尚な講義を受けられたり、無償で食べ物、泊まる所、お風呂までいただけた事は、とてもありがたいことだと思いました。』

『自分でもビックリするくらい「きらめき未来塾」でたくさんのことを学びました。様々な県の子たちと、その地方の方言についてしゃべったり、普段では体験できない経験ができました。講義では、「人生の目標や夢を追い求める難しさと大切さ」「アフターメーションの重要性」「今までと違う弁護士の姿」「英語を話すことにもっと自信を持つこと」「夢を実現する力」「歌のおもしろさ」「平和・命の大切さ」「進路のヒント」「世界中を旅して、世界中の人と触れ合うおもしろさ、世界中の人を助けるすばらしさ」「どのように生まれてきたか」「体を動かす楽しさ」「素粒子と宇宙の関係性」「夢を追い求めること」など様々なことを学びました。普段同じ高校生とディスカッションを真剣にすることがなかったので自分だけじゃなくて同じグループの子たちの考えていることも知れて、すごくディスカッションの重要性や楽しさを感じました。また、旗をつくったり、達成感もありCチームのみんなとの絆は5日間だけでしたが、とても深くなりました。』

『今回の塾を通して、本当にたくさんのことを学んだように思う。まず、他の塾生と接して、改めて自分の未熟さ、特になかなか適応することができなかったということに気づかされた。

おっくうになり1人で椅子に座っていることが多かった。やっぱり無言で座っていたら、話しかけづらいし、自分も他の人のところに行くチャンスを逃しているなと思った。皆と仲良くなるにはやっぱり自分から行動しないといけないと思った。

今回はこういうことが多かったので、これからの人生はそうやってトライすることをやめずに、できるかぎり自分から行動し、他の人と交流していきたい。

そして東北から来てくれた塾生の話や、講師の方々の話を聞いて、やっぱり自分の国を大事にしなければいけないと思った。今の日本は震災だけでなく竹島や尖閣諸島のことなどたくさん問題がある。そんな日本を見るのは悲しいし、そうしているとどんどん他の国に抜かれてしまう。国民一人ひとりが日本を大事にして、いろいろな問題を一人ひとりが真剣に考える世の中にならないといけないなと思った。』



『最初はやっぱり怖かったですけど、一緒に過ごしていく時間が長くなればなる程、みんなとの絆が深くなっていった気がしました。友達同士では、なかなか難しい話などで対話したりしないので、とても良い機会になりました。夜にニュースを見ながら政治家などについて、まじめに話しあっていたり、普段できない事をできて嬉しかったです。しっかりとした夢はまだ決まっていませんが、今回学んだ事をしっかり生かして、基礎のしっかりした夢を見つけたいです。』

『刺激的な4日間だった。あまり他の高校に知り合いはいなかったし、気持ちをきくことなんてこれまでにはなかった。彼らがどんなに今の日本について考えているかわかった。どれだけ熱く考えているかわかった。最近色々な意味で冷めている人が多いように思う。自分自身もそれが普通なのかと思っていた。でもそれは違うとわかった。彼らと出会えたことは、僕自身の宝のように思う。

この5日間が僕にとって「Change」になったかどうかは分からない。でも色んなことを考えるきっかけになったし、自分の中でなにかが変わった。この5日間で色々な方の生き様を見てきた。本当にかっこ良かった。すべての方が社会のために努力していた。僕は将来少しでも社会が良くなるように働きたい。』



## (2) これからの目標

まとめシート：「未来塾で学んだことを、あなたのこれからの生活、学習または目標、将来の夢の実現のために、どのように役立てていきますか?」

『失敗しても諦めない精神、常に前進することを考えて行動する。自分の限界を決めつけない、人の意見に耳をかたむけながらも、自分の考えを大切にする。

弁護士の森先生のお話では、自分の知らなかったことなど、たくさん教えていただいたので、まずは弁護士について知る努力をしようと思います。(弁護士を目指しているので)』

『僕は未来塾を経て、多くの友人を作ることができ、多くの人生訓というものに出会いました。友人を作れたのは、高校ではほとんど喋らないという内向的な自分にとって最高の薬となりました。また多くの講師のお話は、未来へとはばたくための道標となり、充実したものとするために、僕の人生観というものも変わりました。長いようで短かった、この未来塾に参加でき、本当に良かったと思います。』

『私は、未来塾の講義で学んだ目標を持つということを大切にして、自分の行動に責任を持てる人になりたいです。』

『私は、未来塾で学んだことを、しっかり、これからの生かしていきます。まずは、努力、あきらめない気持ち、命を大切にして、夢を叶えたいです。そして、積極的に行動していきたいです。』



『今回のアフターセッションや11の講義等を通して、人と接する際の挨拶や目的・目標等を設定することの大切さがわかったので、進学していく上で未来塾での経験を活かし、夢・目標を達成できるよう、こつこつと努力していきたいです。』

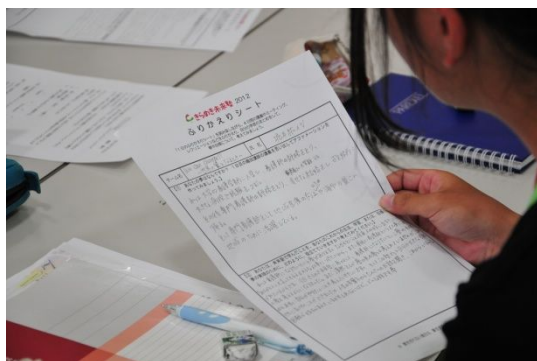
『私は、まず、これからの自分の知識の基礎となる学校の勉強に一生懸命取り組みます。また、今までは、とても興味があったのに、面倒くさがって深く学ぶことをやめていた日本の伝統文化・演劇、それから未来塾で興味を持ち始めた英語や走ることなどにも、1つずつ真っ直ぐ向き合い、知識や経験を増やしていきます。夢の実現に向け、普段から何事にも一生懸命であきらめず、人のお話もきちんと聴ける余裕のある人になろうと思います。』



『色々な夢があって、それを持つ人達がいる。自分一人が悩んでる訳ではなく、皆が四苦八苦している。そのことを忘れず、自分が本当にしたいことに対し、しっかりと向き合い、失敗を恐れずにやれるだけのことをしていきたい。夢を叶えるため、諦めないこと、人に何言われても自分を信じることを信念にしようと思う。だけど意固地にはならず、人の言葉を聞ける人になって思いやることを忘れずに日々を過ごしたい。』

『同世代にこんなにスゴイ仲間たち、こんなに熱い仲間がいるんだということ、本気で物事を考えている仲間がこんなにいるんだと思った。帰ってまずすべきことは、目標設定、具体的に学べたことを本気で考えたいと思った。そしてディベート能力。自分の意見を相手にしっかりわか

かってもらうための力をつけたい。「信念」「自分の軸」「これだけは絶対に譲れないモノ」それをしっかりしたモノ、考えにする。本気で社会問題の解決に向かおうと思った。』



『未来塾では、あきらめない心を教えてもらったので、これから学習や生活の面で壁にぶつかることもあると思うけど、あきらめないで頑張って乗り越えていく。いい友達に出会えたので大切にしていきたい。』

『将来のことをもっとしっかり考え、そのためどうするのがいいのかを考えようと思いました。そして、自分から行動できる人間、自分の考え（意志）をちゃんと持っている人間、人に感謝することができる人間になりたいと思いました。この4日間は、将来のことと、自分のことを考え直す、とても良い機会になりました。』



## 11. 事務局総括～反省と来年に向けて

本年度の開催地は淡路島。関西圏であるということで例年に比べると時間的に余裕があったように思う。会場の事前準備や塾生受入等の先発組は、サポーターも含めて4名でスタートした。プレイベントとして、8月19日に洲本市文化体育館にて行った『次世代を担う青少年の育成について』のパネルディスカッションのために、前日から現地入りしていた事務局スタッフがほとんどの準備を済ませておいてくれたので時間的余裕が生まれ、とても助かった。それでも、やはり初日は塾生の受入れや、多くの見学者の対応で諸々の作業が生じた。

塾生の集合や移動については、ほとんどが混乱もなく行うことが出来たが、新大阪集合の予定だった塾生が、現地に直接行ってしまったということがある、その塾生の所在の確認に時間が取られることになってしまった。

新大阪以外で集合する予定の塾生には、遅れた場合の対処方法を学校の担当者に確認し、事務局への報告の徹底を指導すべきだった。

現地に到着するまでのバス内では、例年通りバス内での緊張感が高かったが、毎年、参加してレクや音楽を担当してくれている経験を積んだサポーター達のおかげで時間の経過にともなって塾生間の緊張がほぐれたようだ。



入塾式は全体的にとっても上手く進行した。理事長の挨拶、きらめき未来塾の基本理念について、竹本通弘洲本市長の激励の言葉、地元洲本高校の生徒による塾生の入塾宣誓など、セレモニーの要素を充分に取り入れることができたような印象を持てた。

講義については、どの講義も熱心に聞き入る塾生の姿が多く見受けられたが、反面、自分が関心の低い講義では、聞いていなかったり、居眠りをしたりする塾生が見受けられた。講義内容は、塾生に向けたアドバイスやメッセージが明確に語られた講義の方が一生懸命に耳を傾け、ノートを取る塾生が多かったようだ。非常に専門要素の高い講義では、内容が理解できない塾生もあり、質問もあまり出ていなかっただけで、質問の時間が足りずにディスカッションが充分に行えない講義もあった。「聴講し、ディスカッションを行う。」ことで一つの講義が完結すると思うので、Q&Aの実施方法の検討や、講師の方へのタイムスケジュールの確認や打合せを密に行うようにしたい。

講師の選考や、講義内容については毎年の課題として、なかなか正解が出ないでいる。

サポーターからは、「日本のリーダーを育てること」という未来塾のテーマから少し離れた講義内容のものも見受けられ、講義内容に塾生があまり興味を持ってず時間を過ごしている状態に見えたという意見も寄せられていた。



今後は、未来塾の本来の目的についての確認という意味も込め、毎年テーマを決めてそれに沿った講義内容にさせていただく等、講義全体に一貫性を持たせていく必要があるのかもしれない。

今回の野外学習は淡路人形浄瑠璃の見学と、鳴門海峡の渦の道を歩いた。

人形浄瑠璃については、講義で事前勉強していることもあり、とても興味を持てた塾生が多かった。また、現地で説明していただいた内容に加えて、実際に人形に直接触れさせてもらう等していただけたので、人形浄瑠璃をととても身近に感じる事が出来たようである。野外学習という講義以外で何かを一緒にしながら生れる会話は、塾生同士の交流を深めるのに大いに役立っている様子だった。今後も継続していきたいカリキュラムである。

パネルディスカッションは概ね好評だったようだ。本年度は、スカイプ中継を行った。

パネラーには、未来塾の1期生でありアメリカに留学中の横山君と、現在社会人として活躍している2名のサポーターと、海外での留学を終えて日本に戻ったばかりの佐野さんに参加をお願いした。淡路島からニューヨーク間を中継でつなげながら、それぞれの体験や意見を語ってもらった。ネットワーク技術の進歩で、今の時代を感じさせる画期的なものとなったと思う。

チームミーティングは、過去の未来塾での様子と比べると一番合唱やチーム旗への取組が活発だった印象を受けた。ディスカッションなどでは、今年は例年よりもずいぶんと1チームの人数が多いこともあり、話がまとまるのに時間がかかってしまう傾向にあったようだ。



毎年ではあるが、猛暑の中、四泊五日の日程をこなすのは、塾生もスタッフも体力面で大変である。しかし、本年度のきらめき未来塾2012は、天候にも恵まれ事故もなく成功裡に終了した。講師の方々、サポーターを始めとして、洲本市役所の方々、アスリートネットワーク in すもとのの方々、協賛・ご寄付をいただいた団体・法人・個人の皆さま、そして会員の皆さま、本当にたくさんのご協力をいただいた。このことに感謝申し上げると共に、反省を生かして来年へと繋げていきたい。

きらめき未来塾が、回数を重ねるたびにさらに良いものとなりますように！





## 12. 事務局活動

### (1) 後援許可・協賛を得る

大阪府、兵庫県、京都府、広島県および飛騨市の各教育委員会へ、塾の開催趣旨・内容・塾生の募集要項等について資料を添えて後援の申請をしたところ早々に了承していただいた。

さらに香川県、小豆島町、土庄町の教育委員会にも後援申請を行い、了承していただいた。また、大阪府、兵庫県、京都府の各私立中高連、大阪梅田と大阪北梅田のロータリークラブ、社団法人関西経済同友会、(一社)アスリートネットワーク、飛騨市、そして開催地の洲本市教育委員会、淡路教育事務所、淡路信用金庫、洲本商工会議所、(社)淡路青年会議所、神戸新聞社、からも後援をいただいた。

東北の高校生を招待するため、宮城県、福島県の教育委員会と登米市の後援申請をし、了承いただいた。また、大阪大淀ロータリークラブにご協賛いただいた。

### (2) 塾生の募集状況

大阪府、兵庫県、京都府、広島県、香川県、の各教育委員会、並びに大阪府、兵庫県、京都府、各私立中高連のご協力により、大阪、兵庫、京都、広島、香川からの66名の申込があった。

開催地枠は、8名の参加となった。

HP等から一般応募は、初の沖縄からも高校生の参加もあり、10名となった。

また、がん遺児奨学生対象にも募集をおこなった所、3名の申込があった。

昨年に続いて、東日本大震災の被災地からの招待枠を設定し、宮城県登米市のご協力と福島県教育委員会のご協力のもとをいただき、5名の申込があった。

塾生は合計92名(男子38名、女子54名)となった。当日2名の欠席があったため、90名の入塾となった。

### (3) プレスリリースについて

産経新聞、神戸新聞、スポーツニッポン新聞、保険毎日新聞各紙面、および淡路ケーブルテレビジョンにて、プレイベントのパネルディスカッションおよび、きらめき未来塾2012の開催に関する内容が掲載・放映された。

### (4) 活動内容

H23年9月	・開催地をウェルネスパーク五色に決定 ・開催期間を平成24年8月20日～8月24日の4泊5日に決定
12月	・塾生の募集人数(東京、広島地区含)を80名に決定 ・カリキュラム(案)、講師依頼、スケジュール(案)について検討 ・パンフレット(案)を作成
H24年1月	・社会人サポーター・学生サポーターの役割、募集について検討
2月	・カリキュラム策定 ・パンフレット作成
3月	・後援、協賛依頼 開始 ・事務局・サポーター合同説明会の日時・場所の決定 ・開催地視察(講義会場、宿泊施設、野外学習等の各候補地)
4月	・教育委員会訪問 塾生募集協力依頼 ・社会人サポーターの派遣を数社に依頼開始 ・レクリエーションサポーター、音楽サポーター、学生サポーター依頼開始 ・各企業等に協賛、寄付依頼状送付
5月	・参加塾生の受付開始 ・淡路島訪問 打合せ
6月	・サポーター確定 ・塾生確定(入塾証発送、学校教育委員会へ連絡) ・野外学習について検討 ・マニュアルの作成 ・合同研修会準備 ・事務局打合せ
7月	・事務局・サポーター合同研修会開催 ・各講師資料の手配 ・テキスト作成 ・塾生、サポーターへの配付物の作成 ・参加塾生人数集計 ・参加塾生・教育関係者へ案内発送 ・横断幕、記念品(Tシャツ、キーホルダー)の購入 ・事務局打合せ
8月	・テキスト、カリキュラム、資料、備品等、最終確認 ・会場との打合せ ・備品等の発送 開塾準備
9月、10月	・きらめき未来塾2012開催についての総括、報告書・DVD作成 関係者に発送

13. ご協賛いただいた法人・団体・個人

〈敬称略 順不動〉

法人・団体

アートコーポレーション株式会社	株式会社京伸	ツーサン株式会社
株式会社RCC文化センター	医療法人健昌会	株式会社ディミックスエンターテイメント
株式会社IAGコーポレーション	高麗橋中央法律事務所	株式会社デヴォーション
株式会社アイドマ	国際保険株式会社	株式会社トーア
株式会社アイビーエス	佐土原源税理士事務所	株式会社日商エイジェンシー
アクトレップ株式会社	株式会社サンエーディ	株式会社ニットーファミリー
アドベンチャーコーチング株式会社	株式会社山陰ファミリー	株式会社日豊社
有馬	保険エージェンシー	日本興亜損害保険株式会社
淡路信用金庫	株式会社ジャパンファミリー	ノイエス株式会社
エース損害保険株式会社	有限会社信成サービス	株式会社フオーライフ
医療法人きらめき会 大井整形外科	スポーツニッポン新聞社	医療法人敬生会 フジモト眼科
大阪大淀ロータリークラブ	株式会社損害保険ジャパン	北海道ファミリー株式会社
大阪緑風観光株式会社	タイコー株式会社	学校法人ミスパリ学園
医療法人社団槻萌会	太陽ASG有限責任監査法人	森下仁丹株式会社
大沼胃腸科外科婦人科医院	株式会社中国放送	株式会社ユニバーサルファミリー
関西アイエヌエスサービス株式会社	中国企業株式会社	株式会社レックスリース
九州共栄ファミリー株式会社	有限会社 長和	株式会社ワイコム
株式会社キョードー大阪		

他 記載不可の法人・団体を含む 合計 51 団体・法人

個人

浅井清彦	川野みどり	杉本 香世子	長沼 三郎	村岡 正啓
葭 範夫	菊地 清市	鈴木 規夫	鍋島 雅代	森 薫生
有吉 浩二	木村 道弘	住川 功	西澤 昌彦	矢島 秀勝
磯中 淳	清里 威夫	竹岡 和彦	西澤 良臣	柳本 晶一
伊藤 啓司	小原 和重	田村 廣子	野坂 敏博	矢野 巖
植田 寛重	小松 としゑ	チャールズ・レイク	野々上 孝義	山根 廣子
浮氣 利廣	小山 健治	坪井 一字	畑 守人	山幡 一雄
大竹 美喜	齋藤 洋一	遠越 英行	原納 公也	吉澤 健
大竹 良樹	定久 彰利	外池 徹	平岡 浩史	米津 加代子
岡本 英三	塩崎 隆幸	伴野 國久	松井 秀文	若杉 公一
柏崎 昇一	篠原 良洋	中井 保	松岡 大藏	若原 康正
片岡 聡	下垣 真希	中井 康雄	松澤 一夫	和田谷 笑子
河合 努	新貝 寿行	中尾 俊広	松本 高明	渡部 泰平
川壁 正彦	神保 廣志	中澤 尚文	水野 彌一	

他 記載不可の方を含む 合計 75 名

2012年10月15日現在

## 14. 後援・協賛・理事会

### 後援・協賛（順不同）

大阪府教育委員会	兵庫県教育委員会	京都府教育委員会
広島県教育委員会	香川県教育委員会	福島県教育委員会
宮城県教育委員会	洲本市教育委員会	小豆島町教育委員会
土庄町教育委員会	登米市教育委員会	飛騨市教育委員会
淡路教育事務所		
大阪私立中学校高等学校連合会	兵庫県私立中学高等学校連合会	京都府私立中学高等学校連合会
大阪大淀ロータリークラブ	大阪北梅田ロータリークラブ	大阪梅田ロータリークラブ
(一社)関西経済同友会	(一社)アスリートネットワーク	洲本市
登米市	飛騨市	淡路信用金庫
洲本商工会議所	(社)淡路青年会議所	神戸新聞社

### 理事会

理事長	齋藤 洋一（神戸大学名誉教授/社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会 副会長）
副理事長	吉澤 健（塾長）（元大阪府副知事/前 四国大学経営情報学部教授）
副理事長	柳本 晶一（アテネ・北京オリンピック 女子バレーボール日本代表監督/一般社団法人アスリートネットワーク理事長）
副理事長	水野 彌一（京都大学アメリカンフットボール部 前監督）
専務理事	前田 嘉昭（財団法人日本ラグビーフットボール協会理事/大阪教育大学講師/元大阪府立阿倍野高等学校）
専務理事	朝原 宣治（北京オリンピック 400mリレー銅メダリスト/一般社団法人アスリートネットワーク副理事長）
理事	大竹 美喜（名誉塾長）（アフラック創業者・最高顧問）
理事	大石 正守（発起人代表）（国際保険株式会社 代表取締役会長）
理事	山田 茂善（太陽 ASG 有限責任監査法人 大阪事務所長 代表社員 公認会計士）
理事	若原 康正（大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 代表取締役社長）
理事	山幡 一雄（大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 常務取締役/国際保険株式会社 顧問）
理事	下垣 真希（ソプラノ歌手/名城大学大学院多文化共生論講師/名城大学ドイツ語講師）
理事	葎 範夫（株式会社ディヴォーション 代表取締役）
理事	矢野 巖（矢野 巖税理士事務所 税理士）
理事	鈴木 規夫（プロゴルファー/社団法人日本ゴルフツアー機構常任理事）
理事	相澤 弥一郎（日本 JC シニアクラブ監事/一般社団法人日本サッカー名蹴会理事）
理事	定久 彰利（SAN-ETSU 株式会社山越 顧問）
理事	山田 明仁（事務局次長）（一般社団法人アスリートネットワーク事務局長/一般社団法人日本アスリート会議理事）
理事	西澤 良臣（事務局長）（国際保険株式会社 顧問）
監事	浮氣 利廣（浮氣税理士事務所 税理士）
特別顧問	野田 智義（特定非営利活動法人 ISL 理事長 経営学博士）
特別顧問	濱本 英輔（株式会社ロッテ顧問）
特別顧問	坪井 一字（大阪経済法科大学 教養学部教授）
特別顧問	松岡 大藏（税理士 大阪国税局元徴収部長 桜美会（国税局 OB 会）会長）

## 15. きらめき未来塾 2012 スタッフ・ご協力いただいた方々

大阪事務局 次長	舟尾 逸弘
大阪事務局 スタッフ	小谷 登 塚本 貴一 近藤 由美子 櫻井 宇多 三谷 尚子 宮城 裕美 橋本 節夫 西村 和能
広島事務局 事務局長	神田 雪子
広島事務局 スタッフ	新谷 雅司 山崎 章子
事務局アドバイザー	小松 としゑ 高橋 道子 宮原 あけみ
サポーター	石松 千咲 岩崎 友希 板垣 雄大 浮氣 菜摘 沖本 尚子 工藤 洋平 杉本 結衣 高崎 翔平 辻井 浩史 長倉 愛 中村 容子 成宮 祥子 福井 智恵子 三浦 美保 宮地 賢和 吉村 隆久 吉本 将大
写真担当	伴野 國久
映像担当	吉川 努

### ご協力いただいた方々

洲本市役所	大西 浩樹 様 上村 智恵 様
洲本市教育長	河上 和慶 様
洲本商工会議所	不藤 洋昭 様
淡路信用金庫	上居 孝壽 様 柏木 広志 様
株式会社淡路島テレビジョン	新谷 健太 様
アスリートネットワーク in すもと	三倉 二九満 様 岩熊 隆之 様





**きらめき未来塾事務局**

〒530-0044 大阪市北区東天満 1-12-13 IAG 天満ビル5階

TEL 06-6357-3335 FAX 06-6357-3354

mail: info@kiramekimiraijuku.jp

URL: <http://kiramekimiraijuku.jp>

未来塾へのご感想、ご意見をお待ちしております